

平成28年度
北海道博物館事業実績報告書
(事業実績に関する内部評価)

平成29年3月

北海道博物館

目 次

はじめに	1
事業実績に関する評価にあたっての基本的な考え方	2
I. 北海道博物館の概要	3
(1) 設置目的	3
(2) 事業内容	3
(3) 組織	3
(4) 沿革	4
(5) 職員状況	4
(6) 北海道博物館基本的運営方針	4
(7) 中期目標・計画	6
(8) アイヌ民族文化研究センター事業推進方針	6
II. 総括評価	7
(1) 博物館活動の基盤となる、展示、調査研究等を推進させる措置	9
(2) 道民が特色ある地域文化の創造や地域活性化の拠点とするための措置	9
(3) 利用者の視点に立った博物館づくりへの措置	10
(4) 道民との連携、協働する博物館づくりへの措置	11
(5) 北海道の中核的博物館として、地域の活性化に貢献する措置	12
(6) 道民の知的興味に応える博物館づくりへの措置	13
(7) 研究成果を活かし、北海道の豊かな未来の実現に向けた措置	14
(8) アイヌ文化の振興に寄与すると共に多分化共生社会の実現に向けた措置	15
(9) 各々の措置を実施するために必要なガバナンス体制の確立に向けた措置	16
III. 項目別評価　―第1期中期目標・計画― ―アイヌ民族文化研究センター事業推進方針―	17

はじめに

本報告書は、北海道博物館の平成28年度事業実績に関する内部評価報告書である。

ここで言う「北海道博物館」とは、北海道立総合博物館条例の第3条で規定する三つの施設、(1)北海道博物館(以下「博物館」という。)、(2)北海道開拓の村(以下「開拓の村」という。)、(3)野幌森林公園自然ふれあい交流館(以下「ふれあい交流館」という。)のうち、(1)のことを指す。

平成28年度に博物館が実施した事業実績に関する内部評価は、博物館が策定した「北海道博物館基本的運営方針」に基づく「中期目標・計画」及び「年度計画」を対象とし、平成28年4月から平成29年1月末までの実績で実施した。平成29年2月中旬に項目別評価を行ない、平成29年3月2日(木)に内部評価委員会を開催し、総括評価を実施した。

なお、博物館の施設及び設備の維持管理、「開拓の村」及び「ふれあい交流館」の管理運営については、指定管理者制度が導入されており、指定管理者に対する評価は、知事が定める管理の目標に対する達成度を毎年度、把握、公表することで行っているため、北海道博物館が行う内部評価の対象外とした。

北海道博物館内部評価委員会 委員名簿

委員長	石森 秀三	北海道博物館 館長
副委員長	吉田 公伸	北海道博物館 副館長
副委員長	吉田 亘	北海道博物館 アイヌ民族文化担当副館長
副委員長	(欠)	北海道博物館 学芸副館長
委員	北 敏文	北海道博物館 総務部長
委員	舟山 直治	北海道博物館 学芸部長
委員	小川 正人	北海道博物館 アイヌ民族文化研究センター長兼研究部長
委員	右代 啓視	北海道博物館 総務部企画グループ学芸主幹
委員	堀 繁久	北海道博物館 学芸部博物館基盤グループ学芸主幹
委員	池田 貴夫	北海道博物館 学芸部道民サービスグループ学芸主幹
委員	水島 未記	北海道博物館 学芸部社会貢献グループ学芸主幹
委員	堀籠 正	北海道環境生活部文化・スポーツ局 文化振興課主幹
委員	丹羽 浩二	北海道環境生活部 アイヌ政策推進室主幹

事務局	北海道博物館 総務部企画グループ
-----	------------------

事業実績に関する内部評価にあたっての基本的な考え方

博物館は、「基本計画」の第2章6項(4)「博物館運営の評価」の趣旨に基づき、平成28年度の事業実績に関する内部評価を実施した。

なお、博物館は博物館法で定める「登録博物館」、「公立博物館」に該当する施設ではないが、内部評価を実施するに当たっては、「博物館法」第9条ならびに「博物館の設置及び運営上の望ましい基準」(文部科学省告示第165号)の第4条1項の規程を参考にして実施した。

博物館が具体的に内部評価を行うに当たっては、当館が策定した「北海道博物館内部評価実施要領」により次のように実施した。

○目的

- ・博物館が策定した基本的運営方針の達成状況等を自ら点検し、改善を図ること。
- ・評価を通じて、博物館の課題・成果を館外で共有してアカウンタビリティ(責任説明)を明確にして、博物館の運営状況をわかりやすく道民に示すこと。

○評価の実施

博物館は、第1期中期目標・計画期間(平成27年度～平成31年度)における平成28年度(平成28年4月から平成29年1月末まで)の事業実績に関して、次の内部評価を行った。

ア. 項目別評価

各グループが実施した事業に関する点検作業の結果に基づいて、年度計画の項目ごとに、各グループの主幹、学芸主幹、研究主幹が年度事業の実績ならびに達成状況や課題を記述するとともに、評価基準により評価を行った。

イ. 総括評価

項目別評価の結果に基づいて、博物館が設置した「北海道博物館内部評価委員会」において、全体及び特記事項について記述式により評価を行った。

○項目別評価・総括評価の基準

評価基準	判断の目安	
	取組の項目に関する事項 (右欄の項目以外の項目)	数値目標の項目に関する事項
S 上回って実施している	取組の結果、所期の成果等を上回ったとき	達成度が90%以上 (S、Aの評価は取組状況を勘案の上、判断する。)
A 十分に実施している	取組の結果、所期の成果等を得たとき	
B 十分に実施していない	取り組んではいるが、所期の成果等を得られなかったとき	達成度が90%未満 (B、Cの評価は取組状況を勘案の上、判断する。)
C 実施していない	取組が行われていないとき	

I. 北海道博物館の概要

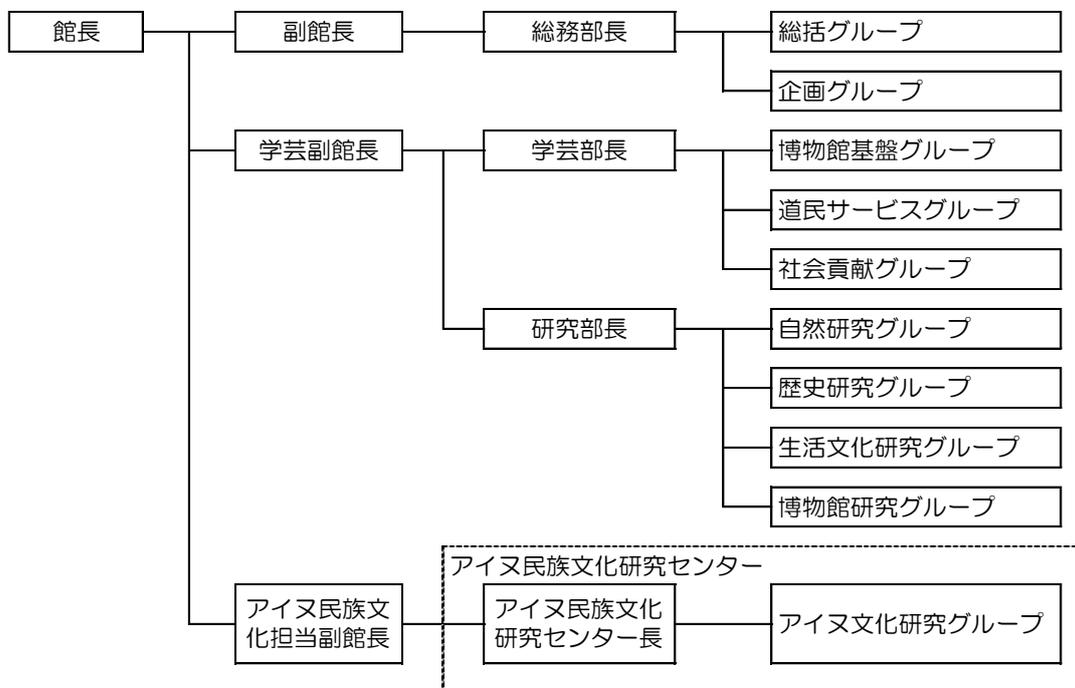
(1) 設置目的

北海道の自然・歴史・文化等に関する資料を総合的に収集し、保管し、展示し、並びにこれらに関する調査研究及びその成果の普及を行うことにより、道民の教養の向上及び文化の発展に寄与する。

(2) 事業内容

- ア 北海道の自然・歴史・文化等に関する資料を収集し、保管し、及び展示すること。
- イ 収集し、保管し、又は展示する資料に関する専門的な調査研究を行うこと。
- ウ 資料の保管及び展示等に関する技術的な研究を行うこと。
- エ アイヌ民族文化に関する調査研究及びその成果の普及、情報の収集及び提供並びに研究の支援を行うこと。
- オ 北海道の自然・歴史・文化等に関する講演会、展示会等の催しを開催し、及び他のものが行うこれらの催しに協力すること。
- カ 特別展示室及びその附属設備を北海道の自然・歴史・文化等に関する講演会、展示会等の催しの利用に供すること。
- キ 資料に関し、案内書、解説書、目録、研究紀要等の作成及び配布並びに必要な説明、助言等を行うこと。
- ク 他の博物館等と連携し、及びこれらの研究活動等に協力すること。

(3) 組織



(4) 沿革

1971（昭和 46）年に設置された北海道開拓記念館は、北海道百年記念事業の一つとして開設された歴史系博物館である。開館以来、北海道開拓のなかで産み出された文化財を中心にさまざまな歴史資料を収集保存、調査研究し、それらを体系的に整えるとともに、常設展示を核とする展示活動や教育普及の諸事業を通して、北海道の歴史と先人の遺産を後世に伝える役割を果たしてきた。

1994（平成 6）年に設置された道立アイヌ民族文化研究センターは、アイヌ民族文化に関する調査研究を行い、その成果の普及等を図り、もってアイヌ民族文化の振興に寄与することを目的として設置された。アイヌ民族文化の中でも継承が急務とされた、言語・口承文芸、芸能、伝統的生活技術等の無形の伝承文化を中心とした調査研究を行うと共に、その理解に欠かせない歴史についての調査研究を行い、その成果の普及に努めてきた。

2008（平成 20）年 6 月に国会で「アイヌ民族を先住民とすることを求める決議」が採択され、その後政府が設置した「アイヌ政策のあり方に関する有識者懇談会」の報告書において、アイヌ文化に係る政策の提言がなされた。そうしたアイヌ文化をはじめとする北海道固有の歴史や文化に対する関心の高まりに伴い、両施設はさらなる研究の推進や、最新の研究成果に基づく展示や学習の機会、情報発信の充実が求められることとなった。また、道民の学習ニーズの多様化など、開拓記念館や道内の博物館を取り巻く社会情勢の大きな変化への対応が求められることとなった。

こうした状況の中、北海道は平成 20 年に北海道文化審議会に対して「北海道における博物館のあり方と開拓記念館の役割」について諮問し、その答申を受けて平成 22 年 9 月に「北海道博物館基本計画」（以下「基本計画」という。）を策定した。「基本計画」は「博物館としての基本的な機能の充実」、「北海道における総合的な博物館」、「道内博物館の中核となる施設」の 3 つを柱とする北海道博物館の設置を目指すこととした。この中で、「アイヌ文化を保存・伝承し未来に活かす博物館」として、アイヌ民族文化研究センターとの統合により、アイヌ文化に関する調査研究等の機能を充実することなどが「基本計画」の中に定められた。そして、平成 27 年 4 月 1 日に北海道開拓記念館と道立アイヌ民族文化研究センターの 2 つの道立施設を統合し、新たに北海道の自然・歴史・文化を広く扱う総合博物館として『北海道博物館』を開設した。また開館に先立って、愛称を「森のちゃれんが」（道民公募）とし、新しいロゴマーク（民間企業等からの公募）を作成した。

(5) 職員状況（平成 29 年 3 月現在）

（人）

区分	特別職	局室長級	課長級	主幹級	主査級	一般職	計
行政職		1	1	(1)	3	2	7 (1)
研究職			2	4 (1)	10	13	29 (1)
非常勤	4					14	18
計	4	1	3	4 (2)	13	29	54 (2)

※括弧は兼務

(6) 北海道博物館基本的運営方針

ア 北海道博物館の使命

- 北海道のすべての人、生き物、大地と海が生み出し、残し託してくれた、北海道ならで

はの自然・歴史・文化に関わる遺産を、わたしたちの大切な宝ものとして未来へとつなぎ、語り伝えることをとおして、道民が北海道を知り、誇りを確認する場であり続けます。

- 野幌森林公園という豊かな自然環境のなか、訪れた方々に北海道の自然・歴史・文化を総合的に体感していただくとともに、知的発見、癒やしとくつろぎ、世代を超えた語り合いや出会いを、おもてなしの心で提供し、道民に愛される博物館であり続けます。
- 北海道の中核的博物館として、道内の博物館等との連携により、北海道再発見のための知のネットワークを築き上げるとともに、北海道の自然・歴史・文化に関する身近な相談窓口として、道民の「知りたい」という気持ちに応えます。
- 北海道の自然・歴史・文化に関する総合的な研究機関として、北海道の国際化・文化力の向上や、持続可能な調和社会の構築をめざして、積極的なビジョンの立案・提言に努め、道民の豊かな暮らしづくりと北海道の未来づくりに貢献します。

イ 基本方針

1 北海道立の総合博物館として、備えるべき基本的な機能を検証し、その充実を図ります

- (1) 総合博物館として、活動の基本となる収集保存、展示、教育普及、調査研究などの機能を高め、北海道ならではの自然・歴史・文化に関わる遺産を最大限に活かし、質の高い活動を展開する博物館づくりを推進します。
- (2) 道民が、充実した博物館資源を活かして、自らのアイデンティティを確かめ、過去に学び未来を展望することができるとともに、さまざまな情報や人材などが連携するネットワークを活かして、特色ある地域文化の創造や地域活性化の拠点とすることができる博物館づくりを推進します。

2 道民と共に歩み、愛される博物館として、豊かな時間と空間を提供します

- (1) さまざまな人びとが繰り返し訪れ、親しまれる「わかりやすく、おもしろく、ためになる」博物館をめざし、利用者の視点に立った、創意工夫に満ちた博物館づくりを推進します。
- (2) 博物館のさまざまな活動に、道民が利用者としてだけでなく、協働者、ときには発信者として多面的に参画する機会を創出することによって、博物館活動をより豊かにし、道民と連携、協働する博物館づくりを推進します。

3 北海道の中核的博物館として、地域の活性化に貢献します

- (1) 北海道の中核的博物館として、地域の博物館等とのネットワークを強固なものとし、共同研究、事業連携、情報共有、資料の相互活用、人材育成等を積極的に推進することにより、地域の活性化に貢献します。
- (2) 博物館ネットワークを活かし、情報の発信力を高めるとともに、レファレンス機能を強化し、道民の知的興味に応える博物館づくりを推進します。

4 専門的・総合的な研究を行う博物館として、北海道の未来に貢献します。

- (1) 北海道とそれを取り巻く地域の自然・歴史・文化を学際的に調査研究する総合博物館として、その研究成果を活かして北海道の豊かな未来の実現に貢献します。
- (2) アイヌの歴史や有形・無形の文化に関する専門的な研究組織を有する世界で唯一の総合博物館として、その研究成果を活かし、普及に努め、アイヌ文化の振興に寄与するとともに、多文化共生社会の実現に貢献します。

ウ 中期目標・計画の策定及び点検・評価の実施

北海道博物館が社会的使命を果たすため、基本方針を踏まえ、資料の収集保存、展示、教育普及、調査研究などの博物館活動の実施に関する中期的な目標・計画を別に策定し、これを公表するとともに、本方針及び中期目標・計画に基づいた運営がなされることを確保し、その事業の水準の向上を図るため、その運営状況について、点検及び評価を行います。

(7) 中期目標・計画

第1期中期目標・計画（平成27年度～平成31年度）については、基本的運営方針に基づき、次の3つの柱を重点項目として進める。

- ① 総合博物館かつ中核的博物館としての基本的な機能の充実や社会貢献など、信頼の確保に向けた取組を進める。
- ② 総合展示の入替えやイベントの充実など、来館者が繰り返し訪れるための魅力ある取組を進める。
- ③ 道民の興味を喚起させる展示、イベント、広報の充実など、これまで博物館を利用しなかった道民が北海道博物館を訪れるための誘導力のある取組を進める。

(8) アイヌ民族文化研究センター事業推進方針

第1期中期目標・計画と整合を図った「アイヌ民族文化研究センター事業推進方針（平成26～31年度）補訂版」については、(7)の3つの柱を重点項目として進める。

〔経緯〕 第1期中期目標・計画（平成27年度～平成31年度）のアイヌ文化関連の項目は、平成25年度にアイヌ民族文化研究センター運営協議会の決定を以て策定された「アイヌ民族文化研究センター事業推進方針（平成25～30年度）」を継承しながら策定された。統合後の平成27年11月には北海道立総合博物館協議会アイヌ民族文化研究センター専門部会が開催され、展示、教育普及等について第1期中期目標・計画との整合性を図った「アイヌ民族文化研究センター事業推進方針（平成26～31年度）補訂版」が了承された。

Ⅱ. 総括評価

総括評価No.	1
---------	---

対象とする中期目標・計画No.	1～4
-----------------	-----

北海道博物館基本的運営方針	
1 北海道立の総合博物館として、備えるべき基本的な機能を検証し、その充実を図ります。 (1) 総合博物館として、活動の基本となる収集保存、展示、教育普及、調査研究などの機能を高め、北海道ならではの自然・歴史・文化に関わる遺産を最大限に活かし、質の高い活動を展開する博物館づくりを推進します。	

総括評価No.	2
---------	---

対象とする中期目標・計画No.	1～4
-----------------	-----

北海道博物館基本的運営方針	
1 北海道立の総合博物館として、備えるべき基本的な機能を検証し、その充実を図ります。 (2) 道民が、充実した博物館資源を活かして、自らのアイデンティティを確かめ、過去に学び未来を展望することができるとともに、さまざまな情報や人材などが連携するネットワークを活かして、特色ある地域文化の創造や地域活性化の拠点とすることができる博物館づくりを推進します。	

項目別評価の結果			
No.	評価基準	目標(値)	担当G
1	A	・北海道博物館として必要なコレクションの受け入れ・登録	基盤G
2	B	・重要文化財公開承認施設としての資料保存環境のを整備	基盤G
3	A	・総合展示の維持管理と資料の入替え	基盤G
4	S	・総合博物館として様々な企画展を計画・実施	基盤G
5	B	・総合博物館として幅広い研究プロジェクトの計画・実施	基盤G
6	A	・科学研究費補助金等の公的機関等からの研究費の獲得	基盤G
7	S	・建造物の整備・修繕計画策定と整備・修繕の実施 ・建造物の内部展示の改修計画の策定 ・百年記念施設のあり方検討	企画G

総括評価		
視点	内容	評価基準
視点	(1) 博物館活動の基盤となる、展示、調査研究等を推進させる措置	A
視点	(2) 道民が特色ある地域文化の創造や地域活性化の拠点とするための措置	
総評	①評価すべき取り組み ○総合展示室利用者数の目標値を大幅に更新(目標値80,000人/利用者数101,775人) ○特別展示室利用者数の目標値を大幅に更新(目標値63,400人/利用者数76,433人) ○企画テーマ展示、蔵出し展も所期の目標を達成 ○特別展「ジオパークへ行こう!」における他機関との連携 ○科学研究費補助金等の獲得(18件) ○開拓の村の整備(インバウンド)にかかる内閣府の地域創生拠点整備交付金を獲得 ○150年事業に向けた百年記念施設のあり方検討 ②改善・注視を要する取り組み ○資料管理、データベースシステムの円滑な運用化 ○貴重なコレクションの資料目録の作成実施 ○調査研究時間の確保、調査研究成果の進捗状況の客観化 ③総体的な評価(評価基準の判断根拠) 総括評価項目1は、項目別評価では、企画展の実施成果と北海道開拓の村整備事業の推進について高く評価できる、しかし改善すべき案件もみられることから、総体的にA評価とする。 項目評価項目2は、項目別評価は妥当であり、A評価とする。	

総括評価No.	3
---------	---

対象となる中期目標・計画No.	5、6、8～10
-----------------	----------

北海道博物館基本的運営方針
2 道民と共に歩み、愛される博物館として、豊かな時間と空間を提供します。 (1) さまざまな人びとが繰り返し訪れ、親しまれる「わかりやすく、おもしろく、ためになる」博物館をめざし、利用者の視点に立った、創意工夫に満ちた博物館づくりを推進します。

項目別評価の結果			
No.	評価基準	目標(値)	担当G
8	A	・子ども向けの魅力あるイベントの充実	道民G
9	A	・子ども向けの教材の開発	道民G
10	A	・利用者ニーズに適合させたはっけん広場の充実化	道民G
11	B	・ミュージアムエデュケーター機能の強化に関する取組	社貢G
12	B	・アメニティ設備の設置 ・オリジナルグッズの販売 ・設備の活用に向けた基準の策定	総括G
13	B	・交通案内の多言語化 ・サインの仕様等の検討、土地所有者への協力依頼 ・屋上開放の再開	総括G
14	A	・野幌森林公園内の利便性と満足度の向上	総括G
15	B	・利用の促進に直接つながる戦略的な広報体制の強化・実践	道民G
16	B	・「北海道博物館赤れんがサテライト」の改善・充実化	道民G
17	A	・北海道立総合博物館協議会などの実施と運営 ・内部評価の計画的実施 ・オーディエンス・リサーチの実施	企画G

総括評価		
視点	(3) 利用者の視点に立った博物館づくりへの措置	評価基準
総評	①評価すべき取り組み ○「ポケット学芸員」導入(無料Wi-Fiサービスの導入) ○塔屋の改修 ○学校関係者、教員、教育関係機関へのPR ②改善・注視を要する取組み ○研修会等、職員の資質向上に向けた取組の共有化 ○公園内のサインの統一化 ○記念ホール活用基準の策定 ○「赤れんがサテライト」の運営 ○ミュージアムショップの充実(指定管理者との協議、実現化が必要) ③総体的な評価(評価基準の判断根拠) 改善を要する案件が多く、事業が十分に実施されたとは言えず、B評価とする。	B

総括評価No.	4
---------	---

対象とする中期目標・計画No.	7、10
-----------------	------

北海道博物館基本的運営方針
2 道民と共に歩み、愛される博物館として、豊かな時間と空間を提供します。 (2) 博物館のさまざまな活動に、道民が利用者としてだけでなく、協働者、ときには発信者として多面的に参画する機会を創出することによって、博物館活動をより豊かにし、道民と連携、協働する博物館づくりを推進します。

項目別評価の結果			
No.	評価基準	目標(値)	担当G
17	A	<ul style="list-style-type: none"> 北海道立総合博物館協議会などの実施と運営 内部評価の計画的実施 オーディエンス・リサーチの実施 	企画G
18	B	<ul style="list-style-type: none"> 道民参加型組織の創設と支援に向けた方向性の確立 	企画G

総括評価		
視点	(4) 道民との連携、協働する博物館づくりへの措置	評価基準
総評	①評価すべき取り組み ○オーディエンスリサーチの実施成果を『博物館研究紀要』第2号に反映 ②改善・注視を要する取り組み ○道民参加型組織の整備 ○質的調査としてのオーディエンスリサーチの本格実施 ③総体的な評価(評価基準の判断根拠) 実施に向けた課題解決が必要であり、総体的にB評価とする。	B

総括評価No.	5
---------	---

対象とする中期目標・計画No.	11
-----------------	----

北海道博物館基本的運営方針

- 3 北海道の中核的博物館として、地域の活性化に貢献します。
- (1) 北海道の中核的博物館として、地域の博物館等とのネットワークを強固なものとし、共同研究、事業連携、情報共有、資料の相互活用、人材育成等を積極的に推進することにより、地域の活性化に貢献します。

項目別評価の結果			
No.	評価基準	目標(値)	担当G
19	B	・外部組織・機関との連携・協力等を行うための方針の策定	社貢G

総括評価		
視点	(5) 北海道の中核的博物館として、地域の活性化に貢献する措置	評価基準
総評	①評価すべき取り組み ○北海道啓成高校との連携（SSH） ○「北のミュージアム活性化実行委員会」としての取組	B
	②改善・注視を要する取組み ○北海道の中核的博物館としての戦略の明確化、予算措置 ○「自然史レガシー継承・発信実行委員会」への参画	
	③総体的な評価（評価基準の判断根拠） 項目別評価は妥当であり、B評価とする。	

総括評価No.	6
---------	---

対象とする中期目標・計画No.	12
-----------------	----

北海道博物館基本的運営方針
3 北海道の中核的博物館として、地域の活性化に貢献します。 (2) 博物館ネットワークを活かし、情報の発信力を高めるとともに、レファレンス機能を強化し、道民の知的興味に応える博物館づくりを推進します。

項目別評価の結果			
No.	評価基準	目標(値)	担当G
20	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ソーシャルメディアの一層の活用 ・レファレンスの流れの一元化 	社貢G

総括評価		
視点	(6) 道民の知的興味に応える博物館づくりへの措置	評価基準
総評	①評価すべき取り組み ○無料Wi-Fiサービスの提供開始	B
	②改善・注視を要する取組み ○図書室の整理、機能強化 ○レファレンス集計方法	
	③総体的な評価(評価基準の判断根拠) 項目別評価は妥当であり、B評価とする。	

総括評価No.	7
---------	---

対象とする中期目標・計画No.	13、14
-----------------	-------

北海道博物館基本的運営方針

- 4 専門的・総合的な研究を行う博物館として、北海道の未来に貢献します。
 (1) 北海道とそれを取り巻く地域の自然・歴史・文化を学際的に調査研究する総合博物館として、その研究成果を活かして北海道の豊かな未来の実現に貢献します。

項目別評価の結果			
No.	評価基準	目標(値)	担当G
21	B	<ul style="list-style-type: none"> 博物館学芸員の後継者および博物館のコアユーザー育成 博物館学系領域の充実化 	社貢G
22	A	<ul style="list-style-type: none"> 研究成果の多様な発信 	社貢G
23	A	<ul style="list-style-type: none"> 道民・北海道への総合的な研究機関としての貢献に向けた体制作り 	企画G

総括評価		
視点	(7) 研究成果を活かし、北海道の豊かな未来の実現に向けた措置。	評価基準
総評	<p>①評価すべき取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ○有償頒布を行ない50部完売 ○『北海道博物館研究紀要』第1号、『アイヌ民族文化研究紀要』第1号掲載論文等をウェブサイトでPDF公開 ○150年事業への積極的な取組 <p>②改善・注視を要する取組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ○外来研究員受入制度の構築 ○派遣研修に関する規定類の整備、体制の構築 <p>③総体的な評価(評価基準の判断根拠)</p> <p>項目別評価は妥当であり、総体的にA評価とする。</p>	A

総括評価No.	8
---------	---

対象	アイヌ民族文化研究センター実施分
----	------------------

北海道博物館基本的運営方針
4 専門的・総合的な研究を行う博物館として、北海道の未来に貢献します。 (2) アイヌの歴史や有形・無形の文化に関する専門的な研究組織を有する世界で唯一の総合博物館として、その研究成果を活かし、普及に努め、アイヌ文化の振興に寄与するとともに、多文化共生社会の実現に貢献します。

項目別評価の結果			
No.	評価基準	目標（値）	担当G
1	A	<ul style="list-style-type: none"> ・クローズアップ展示の計画に沿った更新の円滑な実施と今年度の方針を踏まえた次年度以降の計画策定 ・「アイヌ文化Q&A」の定期的な入替え ・総合展示の定期的な入替え 	アイヌ研
2	A	<ul style="list-style-type: none"> ・企画テーマ展、蔵出し展の開催と次年度以降の計画の具体化 ・巡回展の実施と次年度以降の開催地の選定 	アイヌ研
3	A	<ul style="list-style-type: none"> ・調査研究や研究内容を検討する時間の確保に努め、研究内容を充実させる 	アイヌ研
4	B	<ul style="list-style-type: none"> ・継続的かつ体系的に調査・収集を実施するため、組織的な整備・調査計画の作成に着手する 	アイヌ研
5	B	<ul style="list-style-type: none"> ・未公開資料の公開と公開資料に関する情報提供の充実 	アイヌ研
6	B	<ul style="list-style-type: none"> ・整理・公開計画の策定に基づきデータベース化を着手する ・ホームページアクセス10,000以上 	アイヌ研
7	B	<ul style="list-style-type: none"> ・認知度を上げるため、ホームページ等での新たな情報を掲載する 	アイヌ研
8	A	<ul style="list-style-type: none"> ・アイヌ文化関連のイベントの段階的な増加と改良 	アイヌ研
9	A	<ul style="list-style-type: none"> ・研究紀要等を通して研究成果を積極的に発信し、その内容を充実させる 	アイヌ研

総括評価		
視点	(8) アイヌ文化の振興に寄与すると共に多分化共生社会の実現に向けた措置	評価基準
総評	①評価すべき取り組み ○クローズアップ展示、蔵出し展 ②改善・注視を要する取り組み ○総合展示第2テーマQ&Aの運営（定期的な設題などの入れ替えが必要） ○アイヌ民族文化に関する情報発信機能の強化 ③総体的な評価（評価基準の判断根拠） 項目別評価は妥当であり、総体的にA評価とする。	A

総括評価No.	9
---------	---

対象とする中期目標・計画No.	
-----------------	--

<p>外部評価項目</p> <p>ガバナンス体制の育成</p> <p>H27年度末に北海道立総合博物館協議会から提出される評価のあり方に対する答申に応じて、中期目標・計画とは別に設定した項目である。</p>

項目別評価の結果			
No.	評価基準	目標（値）	担当G
24	B	・課題の共有と解決	総括G
10	B	・研究センター会議（副館長・センター長・非常勤職員の会議／職員全体の会議／主幹・主査の会議）の定例化	アイヌ研
25	A	・課題の共有と解決	文・スポ課

総括評価		
視点	(9) 各の措置を実施するために必要なガバナンス体制の確立に向けた措置	評価基準
総評	①評価すべき取り組み	B
	○懸案事項の集約、課題の共有と解決に向けた取組 ○開拓の村整備に対する予算確保	
	②改善・注視を要する取組み	
	○多くの懸案事項が未整理・未着手のまま ○150年事業に向けたサポート体制の強化と円滑的な連携	
	③総体的な評価（評価基準の判断根拠）	
	項目別評価は妥当であり、総体的にB評価とする。	

Ⅲ. 項目別評価

総括評価・項目別評価 項目一覧

【総括評価項目】

- (1) 博物館活動の基盤となる、展示、調査研究等を推進させる措置
- (2) 道民が特色ある地域文化の創造や地域活性化の拠点とするための措置

[対象となる項目別評価の目標（値）]

No.1	北海道博物館として必要なコレクションの受入れ・登録	21
No.2	公開承認施設としての資料保存環境の整備	22
No.3	総合展示の維持管理と資料の入替え	23
No.4	総合博物館として様々な企画展を計画・実施	25
No.5	総合博物館として幅広い研究プロジェクトの計画・実施	27
No.6	科学研究費補助金等の公的機関等からの研究費の獲得	28
No.7	旧北海中学校など、建造物整備・修繕計画の策定	29

【総括評価項目】

- (3) 利用者の視点に立った博物館づくりへの措置

[対象となる項目別評価の目標（値）]

No.8	子ども向けの魅力あるイベントの充実	30
No.9	子ども向けの教材の開発	32
No.10	はっけんプログラムの運用	33
No.11	ミュージアムエドゥケーターに関する取組	34
No.12	アメニティ設備の設置。オリジナルグッズの販売。設備の活用	35
No.13	バス停の移設	36
No.14	野幌森林公園内の利便性と満足度の向上	37
No.15	広報活動の強化	38
No.16	赤れんが庁舎の活用	39
No.17	利用者調査を含む評価制度の方向性の打出し	40

【総括評価項目】

- (4) 道民との連携、協働する博物館づくりへの措置

[対象となる項目別評価の目標（値）]

No.17	利用者調査を含む評価制度の方向性の打出し	40
No.18	道民参加型組織の創設と支援に向けた方向性の打出し	41

【総括評価項目】

- (5) 北海道の中核的博物館として、地域の活性化に貢献する措置

[対象となる項目別評価の目標（値）]

No.19	連携及び交流の方針・計画案の作成	42
-------	------------------	----

【総括評価項目】

(6) 道民の知的興味に応える博物館づくりへの措置

[対象となる項目別評価の目標(値)]

No.20 図書室の活用のための中長期プランの作成	45
---------------------------	----

【総括評価項目】

(7) 研究成果を活かし、北海道の豊かな未来の実現に向けた措置

[対象となる項目別評価の目標(値)]

No.21 研修・実習プログラムの開発	47
No.22 職員の対外貢献の促進	49
No.23 道民・北海道への総合的な研究機関としての貢献に向けた体制作り	51

【総括評価項目】

(8) アイヌ文化の振興に寄与すると共に多文化共生社会の実現に向けた措置

[対象となる項目別評価の目標(値)]

No.1 総合展示の定期的な入替え	54
No.2 企画展または巡回展の実施	55
No.3 研究プロジェクトの実施	57
No.4 資料・情報の収集と整備	58
No.5 公開資料の充実	59
No.6 発信媒体強化に向けた方向性の打出し	60
No.7 統合後の支援態勢の整備	61
No.8 アイヌ文化関連のイベントの実施と改良	62
No.9 積極的な発信と協働の推進	64

【総括評価項目】

(9) 各の措置を実施するために必要なガバナンス体制の確立に向けた措置

[対象となる項目別評価の目標(値)]

No.24 各部のグループ業務に関する課題の共有と解決	52
No.10 館における研究センターの運営	65
No.25 課題の共有と解決	53

中期目標・計画番号	1-1	目標値番号	1	担当	学芸部博物館基礎グループ
-----------	-----	-------	---	----	--------------

プライオリティ				
H27	H28	H29	H30	H31
	○			

点検項目集計	計	○	×
	7	6	1

第1期中期目標・計画項目
1 資料の収集・保存
(1) 資料の収集

中期目標・計画
ア 資料収集方針に基づき、自然・歴史・文化・文化に関わる後世に残すべき遺産を適切に収集する。
イ 収集した資料については、速やかに調査し、適切に整理・分類・登録する。
ウ 一括で寄贈を受けた貴重なコレクションについては、広く公表するとともに、展示や研究などでより多くの道民及び関係機関が活用できるように、資料群の全体像と個々の資料の基本情報を記した目録を刊行する。

H28年度		項目別評価 (H28年度の実施状況)		H29年度	
No.	年度計画	達成状況	自己評価	評価基準	目標(値)(案)
1	資料収集の方針に基づき、貴重なコレクションを含めた資料を収集する。 ・収集した資料についての調査を実施し、整理・分類・登録した後、新編受入資料の写真撮影及び収蔵番号の注記作業等を進める。 ・一括で寄贈を受けた貴重なコレクションについて目録の刊行に向けた作業を進める。 ・貴重なコレクションを受け入れるにあたって、全体的な工程の再整備を進めるとともに、整理するための分類を再検討する。	資料審査会(設置要綱)に基づき、以下「審査会」というの定例化を決定し、資料の選定や活用状況も報告することとした。 以下、平成29年11月末日曜日の進捗状況である。 ・資料審査会は5回開催し、12件の受入を行った。 ・アイヌ民族文化研究センター資料については、資料分類の割り振りを行い、資料の適正配架に向けて、旧開拓記念館の民族資料を含む再整理を進めている。旧センター資料の注記等の方法の検討については、今後の課題である。 ・一括資料の受入については、弥永北海道博物館から寄贈を受けた弥永コレクションには、地学資料、生活資料、考古資料などを収集し、各研究グループを中心に整理登録作業を進めている。また、全道津本運送資料については、構想と受入の方法を協議して受入の体制作りを進め、受け入れ場所の整備と今後の保存活用計画の策定を行っている。 ・旧館の分類から博物館の研究グループへ体制が代わる中、各グループの分類ごとの資料を割り振ることによって業務を継続することとした。資料受入の工程については資料審査会で示した。分類の再検討(編集の成り等)については、今後の課題とする。	旧開拓記念館資料と旧アイヌ民族文化研究センター資料の統合に伴う資料群については、整理・収蔵の方法を研究グループと協議して作業を進めた。 ・資料審査会を11月から定例化するとともに、貴重な資料の受け入れだけでなく、事務手続きや配用状況等を確認し合うことのできるようになり、資料受入に関する業務を可視化した。 ・弥永資料に関しては地学資料、生活資料、考古資料、アイヌ家などを収集した。また、全道津本運送資料については、受入準備と保存・活用計画を策定した。 ・コレクションの受入体制は、問題なく進められる状態になった。	A	・北海道博物館として必要なコレクションの受入れ・登録 ・北海道博物館として必要なコレクションの受入れ・登録
					【判断数値設定】 有 ・資料審査会の実施回数 ・受入資料件数

目標(値)の実績(平成28年4月～平成29年1月)	5	回
資料審査会の実施回数	12	件
受入資料件数		

中期目標・計画番号	2-1	目標値番号	3	担当	学芸部博物館基盤グループ
-----------	-----	-------	---	----	--------------

プライオリティ				
H27	H28	H29	H30	H31
◎	○	○	○	○

点検項目集計	計	○	×
	21	19	2

第1期中期目標・計画項目
2 展示
(1) 総合展示室の運営

中期目標・計画
ア 最新の研究成果を反映した総合展示の定期的な替えにより、来るたびに違う、飽きない展示を演出するとともに、年齢、母語、障がいの有無などを問わず、すべての方にわかりやすく、楽しめる展示空間を提供する。
イ 総合展示の展示資料について、道民及び関連機関に知らせるため、その全体像と個々の資料の基本情報を記した目録を刊行する。
ウ 総合展示のメンテナンスに努める。

設定内容	目標値(5年間)
総合展示室利用者数	362,000人
うち外国人利用者数	19,000人

総合展示室の利用者数(うち外国人利用者数)の目標値は、次のとおりとする。

H28年度		項目別評価 (H28年度の実施状況)		H29年度					
年度計画	No.	目標(値)	達成状況	自己評価	評価基準				
<p>総合展示の定期的な替えを実施する。 ・障がいの有無に関わらず、すべての人が利用しやすい展示空間の整備に向けた検討を進める。 ・総合展示のメンテナンスに努める。 ・総合展示の防犯体制の見直しを進める。 ・子どもに興味を喚起する展示手法を導入する。</p>	3	<p>総合展示の維持管理と資料の入れ替え</p> <p>【判断数値設定】 有</p> <p>・クロスアップ展示の件数 ・総合展示室の展示品の入替件数</p>	<p>達成状況</p> <ul style="list-style-type: none"> 総合展示の定期的な資料入れ替えを実施するためクロスアップ展示の入れ替えを下記のとおり合計24回実施した。この入れ替えにより、最新の研究成果を紹介し、新着資料・館蔵重要資料を公開すると、飽きない楽しめる展示を提供することに努めた。また、展示ワーキングチームにおいて来年度のクロスアップ展示計画を策定した。 クロスアップ展示①(1テーマ) : 6回 クロスアップ展示②(1テーマ) : 6回 クロスアップ展示③(2テーマ) : 3回 クロスアップ展示④(2テーマ) : 2回 クロスアップ展示⑤(3テーマ) : 2回 クロスアップ展示⑥(4テーマ) : 2回 クロスアップ展示⑦(5テーマ) : 3回 <p>総合展示室1～5テーマの展示資料入替件数は21件である。(クロスアップ展示以外)。その他、プロローグ展示3件、職員紹介コーナー展示で4件の展示資料入れ替えを実施した。この入れ替えにより、最新の研究成果を紹介し、新着資料・館蔵重要資料の公開を進めた。</p> <ul style="list-style-type: none"> スマートフォンを利用したミュージアム展示ガイドアプリを導入することになった。来館者のアンケート等による、館蔵を参考に、障害者、外国人の利便性改善に向けた検討を進めることができた。 展示ケース・設備等の整備を指定管理者とともに点検し、総合展示のメンテナンスを行った(3回)。 総合展示室の定期的な巡回・点検を実施し、防犯に向けた防犯カメラシステムの導入に向けた検討を進めた。(防犯カメラ説明 検討会2回) 子どもの興味を喚起するため、子ども向けクイズワークシートの配布などを行い、子ども向けの展示手法について検討を進めた。 	<p>計画どおりにクロスアップ展示の入れ替えを実施できた。</p> <ul style="list-style-type: none"> スマートフォンを利用したミュージアム展示ガイドアプリを導入することになった。来館者のアンケート等による、館蔵を参考に、障害者、外国人の利便性改善に向けた検討を進めることができた。 総合展示の定期的な巡回・点検を実施し、防犯に向けた防犯カメラシステムの導入を検討中。 子ども向けクイズワークシートの配布を行うことができた。また、子ども向けの展示手法の導入について検討を進めることができた。 	A	<p>総合展示の維持管理と資料の入れ替え</p> <p>【判断数値設定】 有</p> <p>・クロスアップ展示の件数 ・総合展示室の展示品の入替件数</p>			
<p>総合展示室の利用者数(うち外国人利用者数)の目標値は、次のとおりとする。 平成28年度 80,000人 うち外国人利用者数 4,000人</p>			<p>年度計画実績(平成28年4月～平成29年1月)</p> <table border="1"> <tr> <td>総合展示室利用者数</td> <td>101,775人</td> </tr> <tr> <td>うち外国人利用者数</td> <td>3,678人</td> </tr> </table>	総合展示室利用者数	101,775人	うち外国人利用者数	3,678人		
総合展示室利用者数	101,775人								
うち外国人利用者数	3,678人								

中期目標・計画番号 2-1

目標値番号

3

担当 学芸部博物館基礎グループ

H27年度		H29年度																						
年度計画	No.	自己評価	年度計画(案)																					
	3																							
目標(値) 達成状況 目標(値)実績(平成28年4月~平成29年1月) クローズアップ展示の件数 総合展示室の展示品の入替件数		評価基準	目標(値)(案)																					
<table border="1"> <tr> <td>第1テーマ</td> <td>24</td> <td>件</td> </tr> <tr> <td>第2テーマ</td> <td>8</td> <td>点</td> </tr> <tr> <td>第3テーマ</td> <td>12</td> <td>点</td> </tr> <tr> <td>第4テーマ</td> <td>0</td> <td>点</td> </tr> <tr> <td>第5テーマ</td> <td>1</td> <td>点</td> </tr> <tr> <td>第6テーマ</td> <td>0</td> <td>点</td> </tr> <tr> <td>全体</td> <td>21</td> <td>点</td> </tr> </table>		第1テーマ	24	件	第2テーマ	8	点	第3テーマ	12	点	第4テーマ	0	点	第5テーマ	1	点	第6テーマ	0	点	全体	21	点		
第1テーマ	24	件																						
第2テーマ	8	点																						
第3テーマ	12	点																						
第4テーマ	0	点																						
第5テーマ	1	点																						
第6テーマ	0	点																						
全体	21	点																						

中期目標・計画番号	2-2	目標値番号	4	担当	学芸部博物館基盤グループ
-----------	-----	-------	---	----	--------------

プライオリティ				
H27	H28	H29	H30	H31
◎	◎	◎	◎	◎

点検項目集計	計	○	×
	7	6	1

第1期中期目標・計画項目
2 展示
(2) 企画展示の開催

<p>中期目標・計画</p> <p>ア 他の博物館や民間企業との連携・協働、全国規模の巡回展の誘致により、より魅力的な企画展示を実現する。</p> <p>イ 道民の研究成果や創作活動の発表など、道民参加型の企画展示を導入し、道民との連携促進を図る。</p> <p>ウ 北海道博物館独自の研究成果を積極的に反映した企画展示を開催する。</p> <p>特別展示室の利用者数の目標値は、次のとおりとする。</p>	
設定内容	目標値(5年間)
特別展示室利用者数	288,000人

H28年度		項目別評価 (H28年度の実施状況)		H29年度	
年度計画	No.	目標(値)	達成状況	自己評価	評価基準
<p>民間企業と連携した、より魅力的な企画展示を開催する。</p> <p>研究成果を反映した展示、収蔵資料を積極的に公開する展示、及び道民参加型の企画展示を開催する。</p> <p>次年度以降の企画展示の計画、事前調査などの準備を進める。</p>	4	<p>総合博物館として様々な企画展示を計画・実施</p> <p>【判断数値設定】</p> <ul style="list-style-type: none"> 企画展示の利用率 展示件数 	<p>道内5地域のジオパーク推進協議会、北海道新聞社、NHK札幌放送局、(一財)北海道歴史文化財団、(株)北海道地産、(株)イオン北海道と連携し、地域連携、企業連携による大規模かつ魅力的な企画展示として特別展「ジオパークへ行こう」を開催した。外道連携展示などとの連携による秋田県記念スポーツ博物館北海道巡回展(2020年度)や東京オリンピックハロウィンピックがやってくる」を開催した。また、体幹ランジを活用して、北海道北方道立対策本部と連携した「北方領土問題展示コーナー」を開催した。</p> <p>これまでの研究成果を反映した展示は、第5回企画テーマ展「アライヌ民族資料を守り伝える力」、第6回企画テーマ展「あつたかい? 性ま志願? 楽しい! ? 読書物」、第7回企画テーマ展「あつたかい? 性ま志願? 楽しい! ? 読書物」を開催した。</p> <p>収蔵資料を積極的に公開する展示は、第1回蔵出し展「アイヌ民族の造形美」を開催した。</p> <p>道民参加型の展示は、体幹ランジを利用して、北海道化石会と連携した「アインモナイ」展を試行した。平成29年度以降には、道民参加型企画展示の実施要領や募集要領を確定し、広く道民に参加してもらええる体制を整備する計画である。</p> <p>展示ワーキングチームでは、次年度以降の企画展示の計画を策定した。また、特別展プロジェクトチームを組織し、来年度特別展開催に向けた事前調査などの準備を進めた。</p>	<p>特別展「ジオパークへ行こう」については、道内5地域のジオパーク推進協議会および民間企業との連携により展示資料を充実し、広島の徳島県と連携し、50249名の入場者を迎えるなど当初計画以上の成果をあげた。魅力的な展示を提供することができた。また、(株)日本スポーツ振興センターや北海道北方道立対策本部と連携した展示を提供した。</p> <p>3回の企画テーマ展と蔵出し展の開催を通じて、研究成果を広く普及し、収蔵資料を積極的に公開した。また、北海道化石会と連携した道民参加型展示を試行した。</p> <p>展示ワーキングチーム会議を7回開催し後述の企画展示計画を策定した。</p>	S
<p>年度計画</p> <p>民間企業と連携した、より魅力的な企画展示を開催する。</p> <p>研究成果を反映した展示、収蔵資料を積極的に公開する展示、及び道民参加型の企画展示を開催する。</p> <p>次年度以降の企画展示の計画、事前調査などの準備を進める。</p>		<p>総合博物館として様々な企画展示を計画・実施</p> <p>【判断数値設定】</p> <ul style="list-style-type: none"> 企画展示の利用率 展示件数 	<p>道内5地域のジオパーク推進協議会、北海道新聞社、NHK札幌放送局、(一財)北海道歴史文化財団、(株)北海道地産、(株)イオン北海道と連携し、地域連携、企業連携による大規模かつ魅力的な企画展示として特別展「ジオパークへ行こう」を開催した。外道連携展示などとの連携による秋田県記念スポーツ博物館北海道巡回展(2020年度)や東京オリンピックハロウィンピックがやってくる」を開催した。また、体幹ランジを活用して、北海道北方道立対策本部と連携した「北方領土問題展示コーナー」を開催した。</p> <p>これまでの研究成果を反映した展示は、第5回企画テーマ展「アライヌ民族資料を守り伝える力」、第6回企画テーマ展「あつたかい? 性ま志願? 楽しい! ? 読書物」、第7回企画テーマ展「あつたかい? 性ま志願? 楽しい! ? 読書物」を開催した。</p> <p>収蔵資料を積極的に公開する展示は、第1回蔵出し展「アイヌ民族の造形美」を開催した。</p> <p>道民参加型の展示は、体幹ランジを利用して、北海道化石会と連携した「アインモナイ」展を試行した。平成29年度以降には、道民参加型企画展示の実施要領や募集要領を確定し、広く道民に参加してもらええる体制を整備する計画である。</p> <p>展示ワーキングチームでは、次年度以降の企画展示の計画を策定した。また、特別展プロジェクトチームを組織し、来年度特別展開催に向けた事前調査などの準備を進めた。</p>	<p>特別展「ジオパークへ行こう」については、道内5地域のジオパーク推進協議会および民間企業との連携により展示資料を充実し、広島の徳島県と連携し、50249名の入場者を迎えるなど当初計画以上の成果をあげた。魅力的な展示を提供することができた。また、(株)日本スポーツ振興センターや北海道北方道立対策本部と連携した展示を提供した。</p> <p>3回の企画テーマ展と蔵出し展の開催を通じて、研究成果を広く普及し、収蔵資料を積極的に公開した。また、北海道化石会と連携した道民参加型展示を試行した。</p> <p>展示ワーキングチーム会議を7回開催し後述の企画展示計画を策定した。</p>	
<p>特別展示室の利用者数の目標値は、次のとおりとする。</p> <p>設定内容</p> <p>平成28年度</p> <p>特別展示室利用者数</p> <p>63,400人</p>		<p>年度計画</p> <p>民間企業と連携した、より魅力的な企画展示を開催する。</p> <p>研究成果を反映した展示、収蔵資料を積極的に公開する展示、及び道民参加型の企画展示を開催する。</p> <p>次年度以降の企画展示の計画、事前調査などの準備を進める。</p>	<p>特別展示室の利用者数の目標値は、次のとおりとする。</p> <p>設定内容</p> <p>平成28年度</p> <p>特別展示室利用者数</p> <p>63,400人</p>	<p>特別展示室の利用者数の目標値は、次のとおりとする。</p> <p>設定内容</p> <p>平成28年度</p> <p>特別展示室利用者数</p> <p>63,400人</p>	<p>特別展示室の利用者数の目標値は、次のとおりとする。</p> <p>設定内容</p> <p>平成28年度</p> <p>特別展示室利用者数</p> <p>63,400人</p>

中期目標・計画番号 2-2

目標値番号 4

担当 学芸部博物館基盤グループ

H27年度		H28年度																												
年度計画	目標(個)	自己評価	年度計画(案)																											
No. 4																														
<p>項目別評価 (H27年度の実施状況)</p> <p>達成状況</p> <p>目標(個)実績(平成28年4月~平成29年1月) 第2回特別展(7/9~9/25) シオパークへ行くこう!</p> <table border="1"> <tr> <td>利用者数</td> <td>59,243</td> <td>人</td> </tr> <tr> <td>満足度</td> <td>85.4</td> <td>%</td> </tr> </table> <p>第5回企画テーマ展(4/28~6/5) アイヌ民族資料を守り伝える力</p> <table border="1"> <tr> <td>利用者数</td> <td>9,419</td> <td>人</td> </tr> <tr> <td>満足度</td> <td>94.9</td> <td>%</td> </tr> </table> <p>第6回企画テーマ展(10/14~11/27) きれい?不思議?楽しい? 漂着物</p> <table border="1"> <tr> <td>利用者数</td> <td>6,139</td> <td>人</td> </tr> <tr> <td>満足度</td> <td>94.6</td> <td>%</td> </tr> </table> <p>第1回献出し展(12/22~1/15) ※実質6日間の数値 アイヌ民族の造形美</p> <table border="1"> <tr> <td>利用者数</td> <td>1,632</td> <td>人</td> </tr> <tr> <td>満足度</td> <td>100</td> <td>%</td> </tr> </table> <p>その他、館内外で実施した展覧件数</p> <table border="1"> <tr> <td></td> <td>7</td> <td>件</td> </tr> </table>		利用者数	59,243	人	満足度	85.4	%	利用者数	9,419	人	満足度	94.9	%	利用者数	6,139	人	満足度	94.6	%	利用者数	1,632	人	満足度	100	%		7	件	評価基準	目標(個)(案)
利用者数	59,243	人																												
満足度	85.4	%																												
利用者数	9,419	人																												
満足度	94.9	%																												
利用者数	6,139	人																												
満足度	94.6	%																												
利用者数	1,632	人																												
満足度	100	%																												
	7	件																												

中期目標・計画番号	3-1	目標値番号	6	担当	学芸部博物館基盤グループ
-----------	-----	-------	---	----	--------------

プライオリティ				
H27	H28	H29	H30	H31
◎	◎	◎	◎	◎

点検項目集計	計	○	×
	15	14	1

第1期中期目標・計画項目
3 調査研究
(1) 調査研究の推進

中期目標・計画
ア 北海道の自然・歴史・文化に関する有形・無形の遺産に関する調査研究を推進し、その成果を総合展示や企画展示、教育普及事業に反映させることにより、道民が自らを知り、誇りやアイデンティティを確認する機会を提供につなげる。
イ 道民と連携した基礎的な調査研究を実施するとともに、道民の自主的な研究活動・研究発表の場を設ける。
ウ 外部研究機関や外部研究者と連携しながら、学際的な研究プロジェクトを推進する。
エ 北海道と友好関係にある地域、地理的・歴史的・自然的・文化的な関係のある地域、類似点のある地域の博物館や研究機関との交流及び共同研究を推進する。
オ 館内での研修会、館外での長期研修への派遣などを実施し、職員の研究資質の向上を図る。

H28年度		項目別評価 (H28年度の実施状況)		H29年度	
年度計画	No.	達成状況	自己評価	評価基準	目標(値)(案)
科学研究費補助金の継続・新規採択された研究課題について、研究成果を上げるとともに、新規課題の申請を積極的に行う。 ・その他の外部資金について、情報収集を行い、研究活動と合致するものを精査し、申請などの手続を行う。	6	・科学研究費補助金については、前年度からの継続12件に加え、新規5件、計17件を獲得し、研究を実施している。来年度以降については新規10件の申請をおこなった。 ・科学研究費補助金以外の外部資金については、情報収集し、研究職員への周知を図り、新規に1件の申請をおこなった(採否は未通知)。獲得実績はない。 ・北方四島専門家交流助成金については、(独)北方領土問題対策協会に申請を行い、助成金を獲得した。	・科学研究費補助金については、30名の学芸員・研究職員で17件もの補助金を継続的に獲得することができている ・それ以外の外部資金の獲得に向けた具体的な努力が課題である。	A	科学研究費補助金等の公的機関等からの研究費の獲得 科学研究費補助金等の公的機関等からの研究費の獲得
		目標(値)実績 科学研究費補助金件数 17件 上記以外の補助金件数 1件		【判断数値設定】 有 無	

中期目標・計画番号 4

目標値番号 7

担当 総務部企画グループ

第1期中期目標・計画項目

4 北海道開拓の村の整備

プライオリティ			
H27	H28	H29	H30
	○	○	○
			○

中期目標・計画

ア 北海道開拓の村に移築・復元されている歴史的建造物群を、北海道の貴重な財産として後世に伝える取組を進める。

イ 建造物内の展示の充実に取り組む。

点検項目集計	計	○	○	×
	3	3	0	0

H28年度		項目別評価 (H28年度の実施状況)		H29年度	
No.	年度計画	達成状況	自己評価	年度計画 (案)	目標 (値) (案)
7	<ul style="list-style-type: none"> H28年度北海道開拓の村施設整備計画にしたがって建造物の補修工事などを実施する。 H29年度北海道開拓の村施設整備計画を策定する。 北海道開拓の村建造物の内部展示の改修・改訂について検討を進め、建造物内部展示改修・改訂整備計画を策定する。 北海道150年に向けて、「百年記念施設のあり方検討会議」を通じた北海道開拓の村のあり方について、具体的な検討を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> 旧広瀬写真館補修工事 (第2期、工期：平成28年8月31日から平成28年11月30日まで) を実施した。 ①屋根工事 ②外壁工事 ③柱、土台補修工事 ④真鍮工事 ⑤雑工事 ⑥内装工事 ⑦仮設工事 平成29年度における北海道開拓の村施設整備計画を策定した。 北海道開拓の村建造物内部展示改修・改訂整備計画作成のため、建造物内部展示の老朽化調査を実施した (18棟)。平成29年度も継続して実施する。 国の地方創世視察整備交付金を受け、平成28年度は「歴史文化施設」におけるインハウンド交流施設整備事業」計画を策定し、実施に向けた準備を進めた。 平成29年度には、旧小川家路徳番舎と旧菊田家農家住宅の改修および体験フーズ等の整備、馬車鉄道道延伸、吊り橋改修、看校寺の整備を実施する。 環境生活部文化・スポーツ局文化振興課が主催する「北海道百年記念施設のあり方検討委員会」の要請を受け、百年記念塔、北海道開拓の村、北海道博物館の各施設のあり方について、内部検討を行い、「北海道百年記念施設のあり方検討報告書」に反映させた。 	<p>北海道開拓の村施設整備計画に基づき、旧広瀬写真館の第2期補修工事を実施し、平成29年度開拓の村施設整備計画を新たに策定した。また、建造物内部展示の老朽化調査を実施した。このことを契機として、環境生活部文化・スポーツ局文化振興課と計画的な予算確保を目標とし、北海道開拓の村の整備の検討を進めた。</p> <p>特に、今年度から国の地方創世視察整備交付金を受け建造物2棟、内部展示2棟、馬車鉄道の軌道延伸、看校寺の整備を行うこととなった。さらに、これらを含め、「百年記念施設のあり方検討委員会」で、北海道開拓の村の今後のあり方について提案をし、北海道開拓の村の整備につなげることをとした。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 平成29年度北海道開拓の村施設整備計画にしたがって、建造物の補修工事等を実施する。また、Wi-Fi整備、トイレ洋式化の工事を実施する。 地方創世視察整備交付金による「歴史文化施設におけるインハウンド交流施設整備事業」の実施。 「歴史文化施設におけるインハウンド交流施設整備事業」の策定。 平成28年度に引き続き、北海道開拓の村内部展示の改修・改訂について検討を進め、建造物内部展示改修・改訂整備計画を策定する。 平成30年度北海道開拓の村施設整備計画を策定する。 北海道150年に向け「北海道百年記念施設のあり方検討報告書」を策定し、「開拓の村のあり方」について検討を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> 建造物の整備・修繕計画策定と整備・修繕の実施。また、Wi-Fi整備、トイレ洋式化の工事を実施。 「歴史文化施設におけるインハウンド交流施設整備事業」の実施。 建造物の内部展示の改修計画の策定。 北海道150年に向け「北海道百年記念施設のあり方検討報告書」を策定し、「開拓の村のあり方」について検討を進める。 「北海道百年記念施設のあり方検討報告書」を策定し、「開拓の村のあり方」について検討を進める。
				判断数値設定	無

中期目標・計画番号 5-1

目標値番号

8

担当

学芸部道民サービスグループ

H28年度		H29年度					
年度計画	No.	達成状況	自己評価				
年度計画 イベントの参加者数の目標値は、次のとおりとする。 <table border="1"> <tr> <td>設定内容</td> <td>平成28年度</td> </tr> <tr> <td>イベント参加者数</td> <td>3,900人</td> </tr> </table>	設定内容	平成28年度	イベント参加者数	3,900人	8	達成状況 年度計画実績(平成28年4月～平成29年1月) イベント参加者数 6,079人 目標(値)実績(平成28年4月～平成29年1月) ハンズオンの実施件数 5件 総合展示場内におけるイベント件数(子ども/全体) - / 779人 グループレクチャー(中学生以下/全体) 5,126 / 7,611人	自己評価 ・これらの点を念に、利用者への満足度把握、各種事業終了後の運営・企画等について見直しを行ない、事業の改善・充実化にむけ、来年度事業の策定を行った。
設定内容	平成28年度						
イベント参加者数	3,900人						
			評価基準 イベントの参加者数の目標値は、次のとおりとする。 <table border="1"> <tr> <td>イベント参加者数</td> <td>6,000人</td> </tr> </table>	イベント参加者数	6,000人		
イベント参加者数	6,000人						

中期目標・計画番号 5-2

目標値番号 9

担当 学芸部道民サービスグループ

第1期中期目標・計画項目

5 教育普及事業
(2) 教材の充実

プライオリティ
H27 H28 H29 H30 H31
◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎

中期目標・計画

情報・通信技術を活用した機器（ICT機器）による多言語解説、ワークブックや解説書、さわられる資料や五感を刺激する資料・装置など、あらゆる利用者に対応した総合展示・企画展示の理解を促す教材の充実を図る。

点検項目集計	計	○	×
	2	1	1

H28年度		H29年度								
No.	年度計画	年度計画(案)	目標(値)(案)							
9	<p>「クイズシート」や「ちゃれんがラリー」など、子どもをはじめとする来館者が総合展示の内容を楽しく学ぶことができる教材の開発について取り組む。</p> <p>来館者が総合展示の内容について理解を深めることができると、多言語に対応した解説サービスを導入・運用する。また、その充実についての取組を進める。</p>	<p>子どもをはじめとする来館者が総合展示の内容を楽しく学ぶことができる教材の開発について取り組む。</p> <p>「クイズシート」や「ちゃれんがラリー」など、子どもをはじめとする来館者が総合展示の内容を楽しく学ぶことができる教材の開発について取り組む。</p> <p>多言語に対応した解説サービスは、スマートフォンによる6か国語（日本語、英語、繁体中文、韓国語、ロシア語）の展示解説アプリ「ポケット学芸員」を、平成28年4月19日に導入した。また、無料Wi-Fiの設置を行ない、「ポケット学芸員」利用の利便性を高めた。</p> <p>日本語版（一部多言語）のガイドブックを作成し道内外博物館、図書館、本屋、海外友好協会などに配布した。</p> <p>6か国語対応のアプリで活用した。</p> <p>学校教員を対象とした「博物館教育プログラム研修会」の実施にありせ、見学シートのひな形10点を製作し、参加者に提示した。</p>	<p>子ども向けの教材の開発</p> <p>【判断数値設定】 有</p> <p>【開発した教材数の件数】</p> <p>クイズシート以外に開発した教材数</p>	<p>子ども向けの教材の開発</p> <p>【判断数値設定】 有</p> <p>開発した教材数</p>						
	<p>達成状況</p> <p>子どもをはじめとする来館者が、総合展示の内容を楽しく学ぶことができる教材の開発については、特別展示関連事業として札幌市青少年科学館、サンピア水族館と連携して行ったクイズラリーのクイズシート1件の開発・導入にとどまった。</p> <p>多言語に対応した解説サービスは、スマートフォンによる6か国語（日本語、英語、繁体中文、韓国語、ロシア語）の展示解説アプリ「ポケット学芸員」を、平成28年4月19日に導入した。また、無料Wi-Fiの設置を行ない、「ポケット学芸員」利用の利便性を高めた。</p> <p>日本語版（一部多言語）のガイドブックを作成し道内外博物館、図書館、本屋、海外友好協会などに配布した。</p> <p>6か国語対応のアプリで活用した。</p> <p>学校教員を対象とした「博物館教育プログラム研修会」の実施にありせ、見学シートのひな形10点を製作し、参加者に提示した。</p>	<p>自己評価</p> <p>平成28年度の目標は達成する見込みである。</p> <p>ただし、子ども向けの教材の開発は不十分である。</p> <p>スマートフォンを活用した多言語展示解説サービスの導入は達成したが、音声解説までは導入できていない。</p> <p>ガイドブックについては日本語版（一部多言語）は作成・配布できたが、英語版の作成については、必要性をめぐり検討が必要である。</p> <p>アプリについては、より多様な活用を図る必要がある。</p> <p>学校教員と連携を深め、学校教育にとってよりよい教材を開発していく必要がある。</p>	<p>評価基準</p> <p>A</p>	<p>H28年度の実績</p> <table border="1"> <tr> <td>開発したクイズシート</td> <td>1件</td> </tr> <tr> <td>クイズシート以外に開発した教材</td> <td>4件</td> </tr> <tr> <td>内訳</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ①6か国語対応スマートフォンによる展示解説アプリ ②ビジュアル北海道博物館 ③北海道博物館プロモーションビデオ ④学校向け見学シートひな形10枚 </td> </tr> </table>	開発したクイズシート	1件	クイズシート以外に開発した教材	4件	内訳	<ul style="list-style-type: none"> ①6か国語対応スマートフォンによる展示解説アプリ ②ビジュアル北海道博物館 ③北海道博物館プロモーションビデオ ④学校向け見学シートひな形10枚
開発したクイズシート	1件									
クイズシート以外に開発した教材	4件									
内訳	<ul style="list-style-type: none"> ①6か国語対応スマートフォンによる展示解説アプリ ②ビジュアル北海道博物館 ③北海道博物館プロモーションビデオ ④学校向け見学シートひな形10枚 									

中期目標・計画番号	5-3	目標値番号	10	担当	学芸部道民サービスグループ
-----------	-----	-------	----	----	---------------

第1期中期目標・計画項目
5 教育普及事業
(3) はっけん広場の運営

プライオリティ				
H27	H28	H29	H30	H31
◎	◎	◎	◎	◎

点検項目集計	計	○	×
	6	5	1

中期目標・計画
ア 「はっけん広場」の活動を充実させ、新たな発見を利用者にとともに、利用者同士、利用者スタッフの交流の輪を育む。
イ 学校現場など、利用者の声も反映させながら、「はっけんキット」や「はっけんイベント」の改良や開発、「はっけんイベント」の充実を努める。
ウ 博物館利用促進の一環として、学校など、館外への「はっけんキット」の貸出しを推進する。

はっけん広場利用者数の目標値は、次のとおりとする。

設定内容	目標値 (5年間)
はっけん広場利用者数	100,000人

H28年度		項目別評価 (H28年度の実施状況)		H29年度										
No.	年度計画	達成状況	自己評価	評価基準	年度計画 (案)									
10	<p>・北海道の自然・歴史・文化を対象とした「はっけんキット」をもとに来館者の自発的な発見を促すための空間として、はっけん広場を運営する。</p> <p>・はっけん広場をより魅力的な空間にするため、「はっけんキット」の利用利便性を高めるなど、はっけん広場の充実化に向けた取組を行なう。</p> <p>・はっけん広場において、学校団体などの団体利用者を対象に、北海道の自然・歴史・文化を楽しく学ぶための「はっけんイベント」を実施する。</p> <p>・北海道の自然・歴史・文化を対象とした、新たな「はっけんキット」の開発、より効果的な「はっけんプログラム」の充実を進める。</p> <p>・学校など、貸出し用の「はっけんキット」を整備し、館外への貸出しを実施することにも、より効果的な「はっけんプログラム」の充実を図る。</p> <p>・学校など、貸出し用の「はっけんキット」を整備し、館外への「はっけんキット」の貸出しを推進することにも、「はっけんキット」の貸出しを促進するための取組を進める。</p>	<p>・はっけん広場の運営は、自然・書志、アイヌ文化、生活文化などを中心に放すの種類の「はっけんキット」を製作・常備し、来館者の自発的な発見を促すための空間として運営した。「はっけんプログラム」は、「①アノマテでこわい? ヒグマについてもっと知る」、「②アノマテで発見!」、「③やっみてみよう! アイヌ文化」、「④縄文文化のくらら」、「⑤くらべてみよう! アイヌの道具、いぼかし」の5つのメニューを整備のうえ、予約制で実施し、各種団体の要望に応じて実施した。</p> <p>・体験型の「はっけんイベント」は、毎週土曜日、日曜日、祝日開催している。平成28年度のメニューは、4月～6月が「まほうのめいめい博物館にちよんじ」、7月～9月が「岩石マップをつくろう!」、10月～11月が「つくって鳴らそう、アイヌのシガカ笛!」、12月が「しめ縄づくり」、1月～3月が「まじろまじろで書きたるまをつくらう!」を企画した。より効果的な「はっけんキット」の開発は、0件であった。</p> <p>・「はっけんプログラム」の充実については、現任来年度にむけての改善・充実作業に入った。</p> <p>・館外への「はっけんキット」の貸出しは、4件にとどまった。この原因としては、貸出し用の「はっけんキット」が整備されていないことがあげられる。</p> <p>・学校団体を対象とした「博物館教育プログラム研修会」を実施し、学校団体にとってより充実した「はっけん広場の運営」のあり方について検討を行った。</p> <p>・平成27年度、28年度の2年間、教育普及事業を実施してきたなかで得られた利用者からの意見、企画・運営の反省点をまとめ、次年度以降の運営形態を一部変更し、来年度以降の改善・充実を試みた。</p>	<p>・平成28年度の目標は達成することができた。</p> <p>・はっけん広場利用者数の数値目標については、上回ることもあった。</p> <p>・「はっけんキット」の開発は、1件であった。</p> <p>・「はっけんプログラム」の貸出しを促進するための取組が十分であった。</p> <p>・利用者からの苦情や要望を、随時改善・充実に向けた運営形態の一部改善を試みた。</p> <p>・学校教員を対象とした「博物館教育プログラム研修会」を実施し、学校団体のニーズ把握を行なうことができた。</p>	A	<p>・北海道の自然・歴史・文化を対象とした「はっけんキット」をもとに、来館者の自発的な発見を促すための空間として、はっけん広場を運営する。</p> <p>・はっけん広場をより魅力的な空間にする「はっけんキット」の利用利便性を高めるなど、はっけん広場の充実化に向けた取組を行なう。</p> <p>・はっけん広場において、学校団体などの団体利用者を対象に、北海道の自然・歴史・文化を楽しく学ぶための「はっけんプログラム」を実施する。</p> <p>・子どもをはじめとする来館者が北海道の自然・歴史・文化を楽しく学ぶことができるように、体験型の「はっけんイベント」を実施する。</p> <p>・北海道の自然・歴史・文化を対象とした、新たな「はっけんプログラム」の開発、より効果的な「はっけんプログラム」の充実を進める。</p> <p>・学校など、貸出し用の「はっけんキット」を整備し、館外への「はっけんキット」の貸出しを推進することにも、「はっけんキット」の貸出しを促進するための取組を進める。</p> <p>・学校など、貸出し用の「はっけんキット」を整備し、館外への「はっけんキット」の貸出しを推進することにも、「はっけんキット」の貸出しを促進するための取組を進める。</p> <p>・学校など、貸出し用の「はっけんキット」を整備し、館外への「はっけんキット」の貸出しを推進することにも、「はっけんキット」の貸出しを促進するための取組を進める。</p> <p>・学校など、貸出し用の「はっけんキット」を整備し、館外への「はっけんキット」の貸出しを推進することにも、「はっけんキット」の貸出しを促進するための取組を進める。</p>	<p>目標 (値) (案)</p> <p>・はっけん広場利用者数</p> <p>・はっけん広場の充実化</p>								
		<table border="1"> <tr> <td>年度計画実績 (平成28年4月～平成29年1月)</td> <td>はっけん広場利用者数</td> <td>26,200人</td> </tr> </table>	年度計画実績 (平成28年4月～平成29年1月)	はっけん広場利用者数	26,200人			<table border="1"> <tr> <td>目標 (値)</td> <td>平成28年度</td> <td>22,000人</td> </tr> <tr> <td>はっけん広場利用者数</td> <td>平成29年度</td> <td>26,000人</td> </tr> </table>	目標 (値)	平成28年度	22,000人	はっけん広場利用者数	平成29年度	26,000人
年度計画実績 (平成28年4月～平成29年1月)	はっけん広場利用者数	26,200人												
目標 (値)	平成28年度	22,000人												
はっけん広場利用者数	平成29年度	26,000人												

中期目標・計画番号	6	目標値番号	11	担当	学芸部社会貢献グループ
-----------	---	-------	----	----	-------------

第1期中期目標・計画項目				
6 ミュージアムエデュケーター機能の強化				
プライオリティ				
H27	H28	H29	H30	H31
○	○	○	○	○

点検項目集計	計	○	○	×
	4	2	2	2

中期目標・計画
 ア 一般来館者や学校団体がより効果的に学び、気づき、発見できる環境を整えるため、博物館の教育普及活動に必要な、職員の専門的知識及び技能の向上を図る。
 イ 道内の博物館、教育委員会、学校、各種団体などと連携し、より効果的な北海道博物館の利用促進のための取組を進める。

H28年度		項目別評価 (H28年度の実施状況)		H29年度		
年度計画	No	目標(値)	達成状況	自己評価	評価基準	
<p>館内外での研修会などへの参加を通じて、博物館の教育普及活動に必要な、職員の専門的知識及び技能の向上を図る。</p> <p>より効果的な学校団体の利用を促進するために、教員などを対象とした研修会や意見交換会について、そのあり方に関する教員の意向調査を行い、方針・計画の検討を進める。</p>	11	<p>ミュージアムエデュケーター機能の強化に関する取組</p> <p>【判断数値設定】 有</p> <p>・博物館の教育普及活動に必要な知識・技術向上を図る研修会の実施件数</p>	<p>博物館の教育普及活動に必要な、職員の専門的知識及び技能の向上を図るため、平成29年1月12・13日、北海道博物館・北海道エデュケーターを対象とした研修会や意見交換会を開催し、充実したプログラムを実施した。</p> <p>・教員などを対象とした研修会を開催し、充実したプログラムを実施した。</p> <p>・情報支援学校の視察および教員との意見交換会を通じて、特別支援学校等における効果的な利用について情報を共有し、実践につなげていく取組を付けることができた。</p> <p>館内外での研修会への参加、教員などを対象とした研修会の実施は評価できず、「博物館の教育普及活動に必要な知識・技術向上を図る研修会の実施件数」に関しては実施できなかった。</p>	<p>館内外での研修会などへの参加を通じて、博物館の教育普及活動に必要な、職員の専門的知識及び技能の向上を図る。</p> <p>より効果的な学校団体の利用を促進するために、教員などを対象とした研修会や意見交換会を実施する。</p>	<p>目標(値) (案)</p> <p>ミュージアムエデュケーター機能の強化に関する取組</p>	<p>【判断数値設定】 有</p> <p>・博物館の教育普及活動に必要な知識・技術向上を図る研修会などへの参加人数</p> <p>・教員を对象とした研修会などへの参加人数</p>

目標(値) 実績(平成28年4月～平成29年1月)
 博物館の教育普及活動に必要な知識・技術向上を図る研修会の実施件数 0 件

中期目標・計画番号 8-1

目標値番号 12

担当 総務部総括グループ

第1期中期目標・計画項目

- 8 施設及び周辺環境の整備
(1) 館内施設の整備と活用

中期目標・計画
ア 休憩スペース、キッズ・コーナー、ミュージアムショップ、カフェなど、アメニティ設備を充実させるとともに、オリジナルグッズの提案・開発により、博物館としての魅力アップにつなげる。
イ 記念ホール、講堂、グラントホールなどの一層の活用を図る。

プライオリティ			
H27	H28	H29	H30
○			H31

点検項目集計	計	○	×
	8	7	1

H28年度		項目別評価 (H28年度の実施状況)		H29年度																									
年度計画	No.	目標(値)	達成状況	自己評価	評価基準																								
<ul style="list-style-type: none"> アメニティ施設の充実に向け、指定管理者を含め、内部検討を進める。 オリジナルグッズの開発に向けた取組を進める。 記念ホールなどの活用の一層の推進のため、「博物館施設活用基準(仮称)」などの検討・策定を行う。 	12	<ul style="list-style-type: none"> アメニティの設置 オリジナルグッズの販売 施設の活用に向けた基準の策定 	<ul style="list-style-type: none"> グラントホール内に鍵付き鍵立て2台(全96本分) ペビーカー(2台)増設。 オリジナルグッズの開発、販売、販売し、類似施設との差別化を図ること、来館に向けた動機を高めることができた。 施設の活用(他団体利用、イベント等) <ul style="list-style-type: none"> 【記念ホールの活用(他団体利用、イベント等)】 特別展「ジオパークへ行こう!」開会式(主催:博物館、開催日:平成28年7月8日) 北海道ジオパークまつり(主催:北のミュージアム活性化実行委員会、開催日:平成28年7月16日) 文化の日特別イベント「又巻線ラップ」(主催:博物館、開催日:平成28年11月3日) 外部特設巡回展「秋父器記念スペース博物館北海道巡回展」開会式(主催:博物館ほか、開催日:平成29年2月3日) 施設基準策定策定に先立ち、グラントホール床字ブロック改修工事を実施(工期:平成29年1月24日~2月10日) 記念ホール火災感知器改修工事実施(工期:平成29年1月21日~2月28日) 	<ul style="list-style-type: none"> キッズ・コーナー等のアメニティの一層の充実に向け、検討が必要。 オリジナルグッズを開発、販売し、類似施設との差別化を図ること、来館に向けた動機を高めることができた。 施設の活用について、当館主催の式典や会議以外の利活用が図られた。 「博物館施設活用基準(仮称)」の策定については、利用者の安全確保が十分でなく、活用品や他館の利用状況、事業優先度、事業効果の把握が課題と認識。火災感知器の改修が終了し、利用者の安全確保面での課題は解決されたことから、今後は、活用品、優先度、事業効果を見直し、策定に向けた検討を進める。 	B																								
		目標(値)		年度計画(案)	目標(値)(案)																								
		<ul style="list-style-type: none"> アメニティ施設の設置 オリジナルグッズの販売 施設の活用に向けた基準の策定 		<ul style="list-style-type: none"> ミュージアムショップ等のアメニティ施設の充実に向け、指定管理者を含めた検討を進める。 オリジナルグッズの開発に向けた取組を進める。 記念ホール等の活用の一層の推進のため、「博物館施設活用基準(仮称)」等の検討・策定を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> アメニティ施設の設置 オリジナルグッズの販売 施設の活用に向けた基準の策定 																								
		【判断数値設定】	有	【判断数値設定】	有																								
		設置した設備件数とその内訳		設置した設備件数とその内訳																									
		新たに開発、販売したオリジナルグッズ件数		新たに開発、販売したオリジナルグッズ件数																									
		基準の策定と施設の活用件数		基準の策定と施設の活用件数																									
		目標(値)	<table border="1"> <tr> <td>新たに開発、販売したオリジナルグッズ件数</td> <td>11件</td> </tr> <tr> <td>施設の活用件数</td> <td>4件</td> </tr> <tr> <td>設置した設備数</td> <td>2件</td> </tr> <tr> <td>内訳</td> <td>鍵付き鍵立て2 ペビーカー2</td> </tr> </table>	新たに開発、販売したオリジナルグッズ件数	11件	施設の活用件数	4件	設置した設備数	2件	内訳	鍵付き鍵立て2 ペビーカー2	<table border="1"> <tr> <td>新たに開発、販売したオリジナルグッズ件数</td> <td>11件</td> </tr> <tr> <td>施設の活用件数</td> <td>4件</td> </tr> <tr> <td>設置した設備数</td> <td>2件</td> </tr> <tr> <td>内訳</td> <td>鍵付き鍵立て2 ペビーカー2</td> </tr> </table>	新たに開発、販売したオリジナルグッズ件数	11件	施設の活用件数	4件	設置した設備数	2件	内訳	鍵付き鍵立て2 ペビーカー2	<table border="1"> <tr> <td>新たに開発、販売したオリジナルグッズ件数</td> <td>11</td> </tr> <tr> <td>施設の活用件数</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>設置した設備数</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>内訳</td> <td>鍵付き鍵立て2 ペビーカー2</td> </tr> </table>	新たに開発、販売したオリジナルグッズ件数	11	施設の活用件数	4	設置した設備数	2	内訳	鍵付き鍵立て2 ペビーカー2
新たに開発、販売したオリジナルグッズ件数	11件																												
施設の活用件数	4件																												
設置した設備数	2件																												
内訳	鍵付き鍵立て2 ペビーカー2																												
新たに開発、販売したオリジナルグッズ件数	11件																												
施設の活用件数	4件																												
設置した設備数	2件																												
内訳	鍵付き鍵立て2 ペビーカー2																												
新たに開発、販売したオリジナルグッズ件数	11																												
施設の活用件数	4																												
設置した設備数	2																												
内訳	鍵付き鍵立て2 ペビーカー2																												

中期目標・計画番号 8-2

目標値番号 13

担当 総務部総括グループ

プライオリティ			
H27	H28	H29	H30
○			H31

第1期中期目標・計画項目
 8 施設及び周辺環境の整備
 (2) 周辺環境の整備

点検項目集計	計	○	×
	4	2	2

中期目標・計画
 ア 公共交通機関でのアクセス、野幌森林公園内施設相互のアクセスの利便性向上に向けた取組を進める。
 イ 野幌森林公園の景観やイメージとの調和に配慮し、トータルデザインに基づいて公園や園内各施設のサインの統一化を図る。
 ウ 野幌森林公園内の散策路、北海道博物館屋上スカイビューなどにおける野外展示の実現に向けた取組を進める。

H28年度		項目別評価 (H28年度の実施状況)		H29年度		
年度計画	No.	達成状況	自己評価	評価基準	年度計画(案)	
<p>最寄りのJR駅における交通案内(バス停案内)の多言語化を図る。</p> <p>サインの統一化について、森林公園内土地所有者(国有林、道有林)に協力を依頼する。</p> <p>屋上スカイビューの安全な利用を図るため、屋上エレベーター搭屋の外壁改修工事を実施する。</p>	13	<p>JR森林公園駅自由通路内に日英表記のバス停案内板を設置、バス事業者が各バス停に付記。</p> <p>自然ふれあい交流館周辺木道改修工事を実施(平成28年11月29日完成)</p> <p>サインの統一化については、土地所有者の考え方の違いや設置費をともなう内容を含んでいることから進んでいない。</p> <p>屋上エレベーター搭屋改修工事を実施(平成28年5月13日～7月15日/7月13日完成)</p> <p>屋上スカイビューの開放(8/11～11/3までの祝日に実施) 来場者数：08/11：930人 09/19：792人 09/22：728人 10/10：254人 11/03：084人 5日間合計：2,788人</p>	<p>インバウンド受入体制の強化を図ることができた。</p> <p>森林公園利用者の利便性向上が図られた。</p> <p>設置費確保が最大の課題であることから、土地所有者との綿密な打ち合わせが必要。</p> <p>屋上開放の早期再開(平成28年8月11日(祝))を図ることができた。</p> <p>来場者の屋上スカイビューの利用割合は開放した5日間合計で71%であったが、10月、11月は天候も左右し、割合が減少した。</p>	B	<p>サインの統一化について、森林公園内土地所有者(国有林、道有林)と野幌森林公園管理運営協議会等の協賛を依頼する。</p> <p>屋上スカイビューは、4月29日から9月23日までの祝日開放日(計8日間)の10:00～16:00に開放する。</p>	<p>目標(値) (案)</p> <p>サインの仕様や設置費の確保、設置箇所等の検討、土地所有者への協力依頼</p> <p>【判断数値設定】 無</p>

中期目標・計画番号	8-3	目標値番号	14	担当	総務部総括グループ
-----------	-----	-------	----	----	-----------

第1期中期目標・計画項目
 8 施設及び周辺環境の整備
 (3) 野幌森林公園内施設との一体的な取組の推進

プライオリティ			
H27	H28	H29	H30
○			H31

点検項目集計	計	○	×
	2	1	1

中期目標・計画
 北海道博物館、開拓の村、自然ふれあい交流館の連携を強化し、公園内の一体的かつ効果的な運営に努め、利用者の利便性と満足度の向上を図る。

H28年度		項目別評価（H28年度の実施状況）		H29年度	
年度計画	No.	目標（値）	達成状況	自己評価	評価基準
・ホームページの運営など一体的な広報活動などをはじめ、北海道博物館、開拓の村、自然ふれあい交流館の連携に向けた取組を進める。 ・「かちやnet（文化施設連絡協議会）」（構成：博物館、開拓の村、自然ふれあい交流館ほか、野幌森林公園近隣の全10の文化施設）において、スタンプラリー（道立教育研究所を除く9施設が参加）を実施（開催日：平成28年7月16日～8月21日）。 ・「ちゃれんじ」がワークショップにおける博物館と交流館との連携事業の実施（計6回（実施日：平成28年4月16日、6月11日、8月13日、9月24日、10月29日、平成29年2月18日））。 ・博物館と開拓の村間の無料シャトルバスを運行し、各施設間の交通アクセスの向上に努めた。（運行日：平成28年5月3日～6日、平成28年9月20日～23日） 【連絡協議の実施】 ・指定管理者との連絡体制の強化と利用者サービスの向上を図るため、総調整会議設置要綱を定め、平成28年5月13日から施行（1回/月）。 ・野幌森林公園管理運営協議会 《構成機関》 博物館、指定管理者、国、道の関係機関、市 《会議開催日》 平成28年4月15日 《内容》 ・平成27年度事業報告 ・平成28年度事業計画	14	・野幌森林公園内の利便性と満足度の向上 【判断数(値設定)】 有 ・連絡会議の実施件数 ・一体的に行った広報の件数	【一体的な広報等の実施】 ・北海道博物館ホームページを多言語化し、北海道博物館、北海道開拓の村、自然ふれあい交流館の各ホームページにリンクを設定。 ・「かちやnet（文化施設連絡協議会）」（構成：博物館、開拓の村、自然ふれあい交流館ほか、野幌森林公園近隣の全10の文化施設）において、スタンプラリー（道立教育研究所を除く9施設が参加）を実施（開催日：平成28年7月16日～8月21日）。 ・「ちゃれんじ」がワークショップにおける博物館と交流館との連携事業の実施（計6回（実施日：平成28年4月16日、6月11日、8月13日、9月24日、10月29日、平成29年2月18日））。 ・博物館と開拓の村間の無料シャトルバスを運行し、各施設間の交通アクセスの向上に努めた。（運行日：平成28年5月3日～6日、平成28年9月20日～23日） 【連絡協議の実施】 ・指定管理者との連絡体制の強化と利用者サービスの向上を図るため、総調整会議設置要綱を定め、平成28年5月13日から施行（1回/月）。 ・野幌森林公園管理運営協議会 《構成機関》 博物館、指定管理者、国、道の関係機関、市 《会議開催日》 平成28年4月15日 《内容》 ・平成27年度事業報告 ・平成28年度事業計画	・連絡会議や職員交換、一体的な広報等の実施により、博物館、開拓の村、自然ふれあい交流館の連携に取り組んだ。なお、利用者満足度調査において、各施設のPR予定を指し、指定管理者との連携を強め、公園内の一体的かつ効果的な運営に努める。	A ・ホームページの運営など一体的な広報活動をはじめ、北海道博物館、開拓の村、自然ふれあい交流館の連携に向けた取組を進める。 【判断数(値設定)】 有 ・連絡会議の実施件数 ・一体的に行った広報の件数

目標（値）実績（平成28年4月～平成29年1月）	10件
連絡会議の実施件数	10件
一体的に行った広報の件数	10件

中期目標・計画番号	9-1	目標値番号	15	担当	学芸部道民サービスグループ
-----------	-----	-------	----	----	---------------

第1期中期目標・計画項目

- 9 広報
(1) 広報活動の強化

プライオリティ				
H27	H28	H29	H30	H31
◎	○	○	○	○

中期目標・計画

ア 道民の博物館への関心を広げ、利用を促進していくため、あらゆる広報媒体を活用するとともに、職員全員が積極的な広報活動を展開する。
イ 愛称「森のちやれんが」とロゴマークを積極的に広報媒体やサインなどに活用することで、北海道博物館のブランドイメージの向上に役立てる。

ホームページのアクセス数の目標値は、次のとおりとする。	
設定内容	平成31年度
ホームページのアクセス数(トップページ)	395,000件

点検項目集計	計	○	×
	7	5	2

H28年度		H29年度	
<p>年度計画</p> <p>あらゆる媒体を活用した積極的な広報活動を展開する。</p> <p>愛称「森のちやれんが」とロゴマークを積極的に広報媒体やサインなどに活用し、道民への浸透を図るとともに、その浸透度を把握する。</p> <p>H27年度に開発した北海道博物館プロモーションビデオを積極的に活用し、利用の促進に結びつける。</p> <p>外部からの機会に列する広報活動を継続しつつ、さらに積極的にあらゆる媒体に対しての働きかけを強化する。</p>	<p>目標(値)</p> <p>・利用の促進に直接つながる積極的な広報体制の強化・実践</p> <p>・利用の促進に直接つながる積極的な広報体制の強化・実践</p> <p>・愛称「森のちやれんが」とロゴマークを積極的に広報媒体やサインなどに活用し、道民への浸透を図るとともに、他機関の媒体においてもその発信を働きかけ、道民への浸透を図る。</p> <p>・北海道博物館プロモーションビデオをさまざまな機会・場所で積極的に活用し、利用促進に結びつける。</p> <p>・各媒体からの照会にもなう広報を継続しつつ、積極的に働きかけていく広報体制を強化し、実践する。</p> <p>・平成28年度要覧を刊行する。</p>	<p>年度計画(案)</p> <p>あらゆる広報媒体を活用し、職員全員が積極的な広報活動を展開する。</p> <p>愛称「森のちやれんが」とロゴマークを積極的に広報媒体やサインなどに活用するとともに、他機関の媒体においてもその発信を働きかけ、道民への浸透を図る。</p> <p>北海道博物館プロモーションビデオをさまざまな機会・場所で積極的に活用し、利用促進に結びつける。</p> <p>各媒体からの照会にもなう広報を継続しつつ、積極的に働きかけていく広報体制を強化し、実践する。</p> <p>平成28年度要覧を刊行する。</p>	<p>目標(値)(案)</p> <p>・利用の促進に直接つながる積極的な広報体制の強化・実践</p> <p>・愛称「森のちやれんが」とロゴマークを積極的に広報媒体やサインなどに活用し、道民への浸透を図るとともに、他機関の媒体においてもその発信を働きかけ、道民への浸透を図る。</p> <p>北海道博物館プロモーションビデオをさまざまな機会・場所で積極的に活用し、利用促進に結びつける。</p> <p>各媒体からの照会にもなう広報を継続しつつ、積極的に働きかけていく広報体制を強化し、実践する。</p> <p>平成28年度要覧を刊行する。</p>
<p>項目別評価(H28年度の実施状況)</p> <p>達成状況</p> <p>あらゆる媒体を活用した広報件数は、平成28年度はオーフン加、ラジオは減少の傾向にあった。また、その他さまざまな媒体から一定程度の機会があり、その都度情報提供を行った。特に特別展「ジオパーク」は、館全体の協力を得て、広報体制の強化がなされたことにより、多くの媒体で取り上げられ、結果として特別展への浸透を促すことができた。また、道民への働きかけについては、愛称「森のちやれんが」とロゴマークを積極的に広報媒体やサインなどに活用している。一方で、他機関の媒体においては、愛称「森のちやれんが」とロゴマークを積極的に活用しているが、ロゴマークの浸透が不十分である。また、愛称「森のちやれんが」とロゴマークの浸透については、愛称「森のちやれんが」とロゴマークを積極的に活用しているが、ロゴマークの浸透が不十分である。また、愛称「森のちやれんが」とロゴマークの浸透については、愛称「森のちやれんが」とロゴマークを積極的に活用しているが、ロゴマークの浸透が不十分である。</p>		<p>自己評価</p> <p>おおむね平成28年度の目標は達成することができた。新聞の掲載、テレビの増加については、特別展「ジオパーク」は、館全体の協力を得て、広報体制の強化がなされたことにより、多くの媒体で取り上げられ、結果として特別展への浸透を促すことができた。また、道民への働きかけについては、愛称「森のちやれんが」とロゴマークを積極的に広報媒体やサインなどに活用している。一方で、他機関の媒体においては、愛称「森のちやれんが」とロゴマークを積極的に活用しているが、ロゴマークの浸透が不十分である。また、愛称「森のちやれんが」とロゴマークの浸透については、愛称「森のちやれんが」とロゴマークを積極的に活用しているが、ロゴマークの浸透が不十分である。</p>	
<p>評価基準</p> <p>B</p>		<p>評価基準</p> <p>B</p>	
<p>年度計画</p> <p>あらゆる媒体を活用した積極的な広報活動を展開する。</p> <p>愛称「森のちやれんが」とロゴマークを積極的に広報媒体やサインなどに活用し、道民への浸透を図るとともに、その浸透度を把握する。</p> <p>H27年度に開発した北海道博物館プロモーションビデオを積極的に活用し、利用の促進に結びつける。</p> <p>外部からの機会に列する広報活動を継続しつつ、さらに積極的にあらゆる媒体に対しての働きかけを強化する。</p>		<p>目標(値)</p> <p>・利用の促進に直接つながる積極的な広報体制の強化・実践</p> <p>・利用の促進に直接つながる積極的な広報体制の強化・実践</p> <p>・愛称「森のちやれんが」とロゴマークを積極的に広報媒体やサインなどに活用し、道民への浸透を図るとともに、他機関の媒体においてもその発信を働きかけ、道民への浸透を図る。</p> <p>北海道博物館プロモーションビデオをさまざまな機会・場所で積極的に活用し、利用促進に結びつける。</p> <p>各媒体からの照会にもなう広報を継続しつつ、積極的に働きかけていく広報体制を強化し、実践する。</p> <p>平成28年度要覧を刊行する。</p>	
<p>年度計画</p> <p>あらゆる媒体を活用した積極的な広報活動を展開する。</p> <p>愛称「森のちやれんが」とロゴマークを積極的に広報媒体やサインなどに活用し、道民への浸透を図るとともに、その浸透度を把握する。</p> <p>H27年度に開発した北海道博物館プロモーションビデオを積極的に活用し、利用の促進に結びつける。</p> <p>外部からの機会に列する広報活動を継続しつつ、さらに積極的にあらゆる媒体に対しての働きかけを強化する。</p>		<p>目標(値)</p> <p>・利用の促進に直接つながる積極的な広報体制の強化・実践</p> <p>・利用の促進に直接つながる積極的な広報体制の強化・実践</p> <p>・愛称「森のちやれんが」とロゴマークを積極的に広報媒体やサインなどに活用し、道民への浸透を図るとともに、他機関の媒体においてもその発信を働きかけ、道民への浸透を図る。</p> <p>北海道博物館プロモーションビデオをさまざまな機会・場所で積極的に活用し、利用促進に結びつける。</p> <p>各媒体からの照会にもなう広報を継続しつつ、積極的に働きかけていく広報体制を強化し、実践する。</p> <p>平成28年度要覧を刊行する。</p>	

年度計画実績(平成28年4月～平成29年1月)	194,842件
ホームページのアクセス数	
目標(値) 実績(平成28年4月～平成29年1月)	
広報媒体の件数	121件
新聞	69件
雑誌	63件
テレビ	51件
ラジオ	2件
新聞	11件
雑誌	0件
外部機関のチラシ	141回
ホームページの更新回数	184,181件
全体	51,074件
4～6月	96,998件
7～9月	36,109件
10～12月	

ホームページのアクセス数の目標値は、次のとおりとする。

ホームページのアクセス数(トップページ)	190,000件
----------------------	----------

中期目標・計画番号	9-2	目標値番号	16	担当	学芸部道民サービスグループ
-----------	-----	-------	----	----	---------------

プライオリティ				
H27	H28	H29	H30	H31
◎	◎	◎	◎	◎

点検項目集計		計	○	×
		4	2	2

第1期中期目標・計画項目
9 広報
(2) 赤れんが行舎の活用及び他機関との連携

中期目標・計画
 ア 赤れんが行舎（北海道庁日本庁舎）を北海道博物館のサテライト空間として活用し、来訪者を北海道博物館に誘導する展示を実現するとともに、情報発信機能の強化を図める。
 イ 他機関との連携事業に積極的に参加し、利用者と直に接する広報活動を展開する。

H28年度		項目別評価（H28年度の実施状況）		H29年度		
No.	目標（値）	達成状況	自己評価	年度計画（案）	目標（値）（案）	
16	「北海道博物館赤れんがサテライト」の改善・充実化 赤れんが行舎の利用者件数 「北海道博物館赤れんがサテライト」における利用者と直に接する広報活動の回数	・「北海道博物館赤れんがサテライト」の道内博物館の情報発信のコーナーでは、道内全域の博物館のパンフレットなどを配置している。しかしながら、道内全域からの博物館パンフレットの収集、即時補充などは、手順の複雑な段階にあり、パンフレットがほとんどない状況であった。 ・平成28年度は、上記の反省の一環として、道内各博物館のパンフレット、関連冊子を地域ごとに作成・配達し、パンフレットなどのスペースの充実に努めた。 ・また、空間でのものをより魅力的なものに改善するため、開設当初の理念と目的を維持しつつ、3月中旬にサテライト空間を改善する予定で、作業を進めている。 ・他機関との連携による利用者との直に接する広報活動については、「サイエンスパーク」や「かるちゃんnet」など他機関との連携事業に積極的に参加し、利用者と直に接する広報活動を展開する。 ・北海道博物館赤れんがサテライト」の開設や利用者との連携事業の展開が、どれだけ北海道博物館への来館者と結びついているか、定量的に把握し改善・充実化への取組を行なう。	・「北海道博物館赤れんがサテライト」の運用が適切であることは言い難い。 ・空間そのものも改善する必要がある。 ・赤れんが行舎の活用に関する戦略が練られていない。 ・定期的に展示を変えていない。 ・「北海道博物館赤れんがサテライト」において、利用者との直に接する広報活動の計画が策定できていない。 ・広報の効果測定ができていない。	・平成29年3月に改善を予定している新「北海道博物館赤れんがサテライト」の空間が、より魅力的である空間へと改善されたかどうか、効果検証を行なう。 ・道内博物館の情報発信機能の充実を含め、新「北海道博物館赤れんがサテライト」の運用戦略を策定し、実行する。 ・「サイエンスパーク」や「かるちゃんnet」など他機関との連携事業に積極的に参加し、利用者と直に接する広報活動を展開する。 ・「北海道博物館赤れんがサテライト」において、利用者との直に接する広報活動を展開する。	539,118人 1件	「北海道博物館赤れんがサテライト」の運営が、どれだけ北海道博物館への来館者と結びついているか、定量的に把握し、改善・充実化への取組を行なう。
	目標（値）実績（平成28年4月～平成29年1月） 赤れんが行舎の利用者件数 539,118人 「北海道博物館赤れんがサテライト」における利用者と直に接する広報活動の回数 1件					

中期目標・計画番号	10	目標値番号	17	担当	総務部企画グループ
-----------	----	-------	----	----	-----------

第1期中期目標・計画項目
10 評価制度の活用と利用者ニーズの把握

中期目標・計画
ア 毎年度の事業実績について、あらかじめ評価項目を定め、能としての自己点検評価を行い、その結果を公表し、改善すべき点については、速やかに対応する。
イ オーディエンス・リサーチ（利用者調査）を実施し、その結果を分析し、公表するとともに、改善すべき点については、速やかに対応する。
ウ 自己点検評価と利用者調査をふまえ、博物館協議会による外部評価を行い、その結果を公表することを通じて、より良い博物館づくりへとつなげる。
利用者の満足度の目標値は、次のとおりとする。

設定内容	平成31年度
利用者満足度	70%

プライオリティ				
H27	H28	H29	H30	H31
◎	◎	◎	◎	◎

点検項目集計	計	○	×
	5	4	1

H28年度		項目別評価（H28年度の実施状況）		H29年度	
年度計画	目標（値）	達成状況	自己評価	年度計画（案）	目標（値）（案）
北海道立総合博物館協議会（年2回）と北海道立総合博物館協議会アイヌ民族文化研究センター専門部会（年1回）などの円滑な実施と運営を行う。 ・内部評価を実施する。 ・アンケート調査などによるオーディエンス・リサーチを計画的に実施する。	・北海道立総合博物館協議会などの実施と運営 ・内部評価の計画的実施 ・オーディエンス・リサーチの実施	・北海道立総合博物館協議会（第1回：8月10日）とアイヌ民族文化研究センター専門部会（年1回：8月25日）を実施し、平成27年度事業実績を報告し、平成28年度事業計画を示した。平成29年3月実施予定の第2回協議会では、平成28年度の事業実績に関する内部評価報告を予定している。協議会の内容や議事録については、当館ホームページで公開した。 ・平成28年4月から平成29年1月までの事業実績をとりまとめ項目別評価を実施し、3月には内部評価委員会を開催して、内部評価を実施する予定である。 ・博物館利用者の満足度調査については、満足度94.8%（平均値）と高い評価を得た。 ①企画「マ展「海城おんがい」！ 地理と人をむすぶ新りのかたち」（企画：平成28年2月27日～4月10日）。 ◎企画「マ展満足度：91.6%（回答数83件中、満足76件） ◎企画「マ展満足度：95.0%（回答数90件中、満足85件） ◎企画「マ展「アイヌ民族資料を守り伝える力」（企画：平成28年4月28日～6月6日）。 ◎企画「マ展満足度：94.9%（回答数118件中、満足112件） ◎企画「マ展満足度：93.0%（回答数86件中、満足80件） ◎特別展「シオハークへ行こう！」（企画：平成28年7月9日～9月25日） ◎特別展満足度：85.4%（回答数865件中、満足739件） ◎総合展示満足度：92.2%（回答数475件中、満足438件） ④企画「マ展「きれい？不潔？楽しい？票書物」（企画：平成28年10月14日～11月27日） ◎企画「マ展満足度：94.6%（回答数129件中、満足122件） ◎総合展示満足度：95.6%（回答数911件中、満足877件） ⑤企画「マ展「アイヌ民族の造形集 北海道博物館所蔵の木版」（企画：平成28年12月22日～平成29年1月15日） ◎企画「マ展満足度：100%（回答数314件中、満足314件） ◎企画「マ展満足度：100%（回答数224件中、満足224件） ◎アイヌ文化巡回展（夜草巻：平成28年7月5日～平成28年9月4日） ◎アイヌ文化巡回展（夜草巻：平成28年10月27日～平成28年11月27日） ◎夜草巻満足度：100%（回答数811件中、満足811件） ◎美術巡回展満足度：91.7%（回答数244件中、満足222件） ・オーディエンスリサーチ（平成29年8月20日） ◎満足度：98.3%（回答数58件中、満足57件） 年度計画実績(2016年4～12月) 利用者満足度 94.8%	第1回北海道立総合博物館協議会、平成27年度事業実績報告、H28年度事業計画について報告し、さまざまな意見、助言などを寄せた。また、アイヌ民族文化研究センター専門部会においても同様に実施した。このことを受け、検討を進めた。さらに、内部評価実施に向け計画的に進め、第2回協議会を開催することになった。 総合展示、特別展、企画「マ展、巡回展などの利用者の満足度調査を実施し、94.8%と高い評価を得た（7回）。 博物館利用者の入口、出口でのオーディエンス・リサーチを実施し、博物館利用者の満足度調査は98.3%であった（1回）。この調査については、研究紀要2号で報告した。	北海道立総合博物館協議会（年2回）とアイヌ民族文化研究センター専門部会（年1回）などの円滑な実施と運営を行う。平成29年度は、第1期中期目標・計画（平成27～平成31年度）の中間外部評価を実施する。 ・内部評価の実施と運営を行う。 ・アンケート調査などによるオーディエンス・リサーチを実施する（4回）。	・北海道立総合博物館協議会の運営と実施。 ・内部評価の計画的実施。 ・オーディエンス・リサーチの実施。
利用者満足度の目標値は、次のとおりとする。 平成28年度 80%	利用者満足度の目標値は、次のとおりとする。 平成28年度 80%	利用者満足度の目標値は、次のとおりとする。 平成28年度 80%	利用者満足度の目標値は、次のとおりとする。 平成28年度 80%	利用者満足度 80%	利用者満足度 80%

中期目標・計画番号 7

目標値番号 18

担当 総務部企画グループ

第1期中期目標・計画項目
7 道民参加型組織の整備

プライオリティ			
H27	H28	H29	H31
	○	○	○

点検項目集計	計	○	×
	3	3	0

中期目標・計画
ア ポランティア活動の導入、道民の自主的なサークル活動の支援、北海道博物館を支援する組織の創設などにより、博物館活動への道民参加を促進し、道民との連携を強化する。
イ ミュージアムショップ、カフェなどの利用者サービス、有料イベントの企画・運営、外部資金の受入れと活用など、北海道博物館の各種活動に協働参画する支援組織の整備に取り組み。

H28年度		項目別評価 (H28年度の実施状況)		H29年度		
年度計画	No.	達成状況	自己評価	年度計画 (案)	目標 (値) (案)	
<p>「ミュージアム・ハートナー」(仮称)を創設し、ポランティア組織や北海道博物館を支援する組織体制の強化を図る。</p> <p>文化庁などの外部資金を獲得し、全道規模の博物館ネットワーク、ミュージアム・ハートナー事業(仮称)などの推進と強化を図る。</p> <p>道民参加型組織で行う活動・事業内容を検討し、段階的に実施する。</p>	18	<p>北海道立総合博物館(北海道博物館、北海道博物館の創設と支 援に向けて)の活用、北海道博物館(「互 の会(仮)」「ミュージアム・ハートナー(仮)」「ポ ランティア」)の創設に向けた検討を進め、実施 計画案を策定中である。これまでの取組状況や総論をま とめ、一般財団法人北海道歴史文化財団との協議を重ね、 事業概要の検討、実施要項の検討、組 織体制の検討などを進め、実施計画案を策定中である。</p> <p>北のミュージアム活性化実行委員会を組織し、文化庁 の「文化芸術振興補助金」(地域の縁となる美術館・ 歴史博物館支援事業)の外部資金を獲得し、「地域博物 館等とのネットワーク強化を図った。</p> <p>事業内容は、①「北海道の博物館マップ」の作成(北 海道博物館協会と連携し、同協会加盟館118施設を網 羅)、②歴史をふまえた地域の具体的な魅力発信のため のモデルケースづくりとして、「北海道のジオパークま つり」の開催、③「北海道のジオパークと関連地域博物 館マップ」の作成、④道内のジオパーク関連6地域で 「北海道の歴史・文化講座」を開催した。 博物館ネットワーク、ミュージアム・ハートナーの推 進・強化のため、平成29年度文化芸術振興補助金の交 付申請を行っている。</p> <p>道民参加型の展示事業として「北海道民のちやれんが 展示コーナー」を体験ラウンジに設け、北海道化石会の 協力で「アンモナイト」を展示し、定期的な展示入れ替 えを試行実施した。しかしながら、本格的な実施に向け た整備が滞っている。</p>	<p>平成28年度は、北海道総合博物館における道民参加型組織の創設と支援に向けた方向性について、一般財団法人北海道歴史文化財団実施に向けた検討を進めてきた。実施計画の策定については、H29年度の実施に向けた準備を進めた。</p> <p>文化庁の「文化芸術振興費補助金」の外部資金を獲得し、事業を展開している。本事業は、関係各機関と連携し、博物館ネットワークの推進と強化として高く評価できている。</p> <p>道民参加型の展示事業を試行している。また、実施に向けた計画を整備することが未着手となった。</p>	<p>第1期計画「ミュージアム・ハートナー」(仮称)事業を実施する。また、同ハートナーによる博物館運営等の段階的な組織を設置する。</p> <p>道民参加の促進に向け、ポランティア組織や北海道総合博物館を支援する組織体制の強化を図る。</p> <p>文化庁などからの外部資金を獲得し、全道規模の博物館ネットワーク、ミュージアム・ハートナー事業などの推進と強化を図る。</p> <p>道民参加型の事業を検討し、実施する。</p>	<p>道民参加型組織の創設と支援に向けた方向性の確立。</p>	<p>道民参加型組織の創設と支援に向けた方向性の確立。</p>
					無	
					判断数値設定	

中期目標・計画番号	11	目標値番号	19	担当	学芸部社会貢献グループ
-----------	----	-------	----	----	-------------

第1期中期目標・計画項目	プライオリティ				
11 博物館ネットワーク	H27	H28	H29	H30	H31
(1) 各種博物館団体との連携					
(2) 博物館交流の促進	○	○	○	○	○

点検項目集計	計	○	○	X
	9	6		3

<p>中期目標・計画</p> <p>(1) 各種博物館団体との連携</p> <p>ア 日本博物館協会、全国歴史民俗系博物館協議会などとの連携により、全国の博物館へと伝える一方、北海道からの要望をとりまとめるなど、北海道と全国の博物館をつなぐ役割を果たす。</p> <p>イ 北海道博物館協会との連携により、地域ブロック別や館種別組織の活動を積極的に支援するなど、中核的博物館としての役割を果たし、北海道の博物館活動の活性化につなげる。</p> <p>(2) 博物館交流の促進</p> <p>ア 地域の博物館、図書館、教育委員会などと連携し、共同研究、共同事業などを通して地域との協働・交流を促進させ、北海道再発見のための知のネットワークづくりへとつなげる。</p> <p>イ 北海道博物館や道内各地において、道内の博物館職員を対象に、博物館学系の知識や技術を普及する研修会を実施する。</p> <p>ウ 地域の博物館や学校などのニーズに応じ、一般、学生、教員などを対象にした出前講座を実施する。</p> <p>道内市町村等との連携・協力件数の目標値は、次のとおりとする。</p> <table border="1"> <tr> <td>設定内容</td> <td>5年間</td> </tr> <tr> <td>道内市町村等との連携・協力件数</td> <td>200件</td> </tr> </table>	設定内容	5年間	道内市町村等との連携・協力件数	200件
設定内容	5年間			
道内市町村等との連携・協力件数	200件			

H28年度		項目別評価 (H28年度の実施状況)		H29年度		
年度計画	No.	目標(個)	達成状況	自己評価	評価基準	
<p>(1) 各種博物館団体との連携</p> <p>・日本博物館協会、全国歴史民俗系博物館協議会などとの連携により、北海道と全国の博物館をつなぐ役割を果たす。</p> <p>・北海道博物館協会との連携により、中核的博物館として地域ブロック別や館種別組織の活動を積極的に支援する。</p> <p>(2) 博物館交流の促進</p> <p>・外部組織・機関との連携・協力などを行うための方針の策定</p> <p>・地域の博物館、図書館、教育委員会などと連携し、共同研究、共同事業などを通して地域との協働・交流を促進する。</p> <p>・北海道博物館や道内各地において、道内の博物館職員を対象とした博物館学系の研修会の実施に向けた検討を進める。</p> <p>・連携・協力に関して、地域の博物館や学校などのニーズの把握に努める。</p>	19	<p>・外部組織・機関との連携・協力などを行うための方針の策定</p> <p>【判断数値設定】</p> <p>有</p> <p>・図書館、博物館、教育委員会等との連携・協力事業の実施件数</p>	<p>(1) 各種博物館団体との連携</p> <p>・日本博物館協会、全国歴史民俗系博物館協議会などとの連携により、北海道と全国の博物館をつなぐ役割を果たす。</p> <p>・北海道博物館協会との連携により、中核的博物館として地域ブロック別や館種別組織の活動を積極的に支援する。</p> <p>(2) 博物館交流の促進</p> <p>・外部組織・機関との連携・協力などを行うための方針の策定</p> <p>・地域の博物館、図書館、教育委員会などと連携し、共同研究、共同事業などを通して地域との協働・交流を促進する。</p> <p>・北海道博物館や道内各地において、道内の博物館職員を対象とした博物館学系の研修会の実施に向けた検討を進める。</p> <p>・連携・協力に関して、地域の博物館や学校などのニーズの把握に努める。</p>	<p>(1) 各種博物館協会、全国歴史民俗系博物館協議会などとの連携により、北海道と全国の博物館をつなぐ役割を果たす。</p> <p>・北海道博物館協会事務局を通じて、地域ブロック別や館種別組織の活動を積極的に支援する。</p> <p>(2) 博物館交流の促進</p> <p>・地域の博物館、図書館、教育委員会などと連携し、共同研究、共同事業などを通して地域との協働・交流を促進する。</p> <p>・北海道博物館や道内各地において、道内の博物館職員を対象とした博物館学系の研修会の実施に向けた検討を進める。</p> <p>・連携・協力に関して、地域の博物館や学校などのニーズの把握に努める。</p>	B	<p>【判断数値設定】</p> <p>無</p>

H28年度		H29年度	
年度計画	目標(値)	年度計画(案)	目標(値)(案)
19	19	<p>【協力依頼・要請を受けて実施した事業】</p> <p>【市民・団体・企業等との連携】「COSEネットワーク」「生物多様性さっぽろ活動拠点ネットワーク」など他機関が主宰するネットワークへの参加とイベントの実施。「アースデイin田山動物園」「カルチャーツァイト」「サイエンスパーク」「教員のための博物館の白in札幌」「シオ・フェスティバルin Sapporo」等の他組織主催イベントへの参加・出席。</p> <p>【学会及び研究会との連携・協力】日本ニューシリアム・マネジメンツ学会 日本博物館学会が主催する研究大会や関連エクスカーションの共催・協力等。</p> <p>【平取町立二風谷ア・エヌ文化博物館との連携】当館学芸員の研究員を協賛し、同館第22回特別展「糸染に委ねられたアライグマの祭典展(平成28年10月15日～12月15日)」および同館連立展示「ミナハの附催協力」。</p> <p>【北海道札幌成高高等学校との連携】同校SSH(スーパード・サイエンス・ハイスクール)の取組への協力の一環として、「啓成SSH in 光の広場(平成28年9月24日)」の共催、出展と高校生・教員の解説活動への指導等の協力。</p> <p>【その他】「自然史レガシー継承・発信実行委員会」への参画と、京都の町屋での企画展「日本文化を育んだ自然」の共同実行。堺市、国立文化財機構附属「東京シンポジウム2016—文化遺産を考える—」の後援等。</p> <p>・道内の博物館職員を対象とした研修会としては、江別市郷土資料館友の会の視察研修への協力を発行した。</p> <p>・連携・協力に関する地域の博物館や学校などのニーズの把握については、道博協会の際に、委員会にアンケート調査を行った。</p>	<p>自己評価</p> <p>・特別展等と連携した、企業や民間団体との連携事業(6件)、札幌市青少年科学館と連携した展示・普及事業(4件)等を実施してきた。これらの企画へ当館は主体的に参画し、当館の集客増にも効果があった。</p> <p>・また、全国規模のネットワーキングへの参画や高校との連携など、多様な形での事業の連携の緊密さにも、昨年と比べて固々や、事業内容において、質的には高いものとなった。</p> <p>・昨年に引き続き、「かちかちnet」の運営や、他機関が主宰するネットワークへの参画イベントへのなどにより、他の博物館等との交流・連携を深めることができた。</p> <p>・道内の博物館等系の研究として博物館職員を対象とした研修会を開催したが、形式的な企画に留まらず、協力の形では実施したが、自主的な企画に留まらなかった。</p> <p>・地域の博物館や学校等とのニーズの把握については、引き続き進めていく必要がある。</p> <p>以上より、道内市町村等との連携・協力は計画通り見れば年度計画の目標値には及ばないため評価となる。しかしながら、これまでにならぬ形での連携・協力・交流を進めることができ、また、非常に高い博物館交流を実現でき、動員数も多かった。</p>
項目別評価 (H28年度の実施状況)			
<p>達成状況</p> <p>【北のコミュニケーション活性化委員会および各市町村等との連携】特別展「シオパークへ行こう!」のPRを兼ね、道内6か所のシオパークの情報を発信する「北海道シオパークまつり(平成28年7月16日)」の開催。「北海道の博物館同遊マップ(平成27年度作成)」を増刷、追加配布するなど、大きな成果をあげた。</p> <p>【NHK愛蘭放送局、札幌市、回田教養と連携】NHK徳島セミナー「シオパークの海を学ぼう! (平成28年7月31日)」の企画に協力、共催。</p> <p>【北海道新聞社との連携】同じく回田のPRを兼ね、展示観覧と三笠市でのシオパークを内容とする、「第1回まなSUNサマースクール」シオパークへ行こう! (平成28年8月5日)」を共催。</p> <p>【イオン北海道との連携】回田のPRを兼ねた、「北海道シオパークハル展(平成28年8月13日～8月21日)」 「北海道シオパークまつりinイオンモール札幌東(平成28年8月20日)」 「イオンチャンネルにおけるデジタルサイネージ配信」等の開催・実施。</p> <p>【札幌市青少年科学館との連携】当館特別展「シオパークへ行こう!」と同館の特別展「本発見!北海道恐竜展」双方のPRと利用への相乗効果を狙い、同館の特別展の共催、科学館ウェブの当館展示掲載(平成28年7月10日)、ミニワークショップ(平成28年8月3日・20日)、同館内の「シオパークへ行こう!」サテライト展(平成28年7月23日～8月21日)等と共同実施した。この協力関係から、後述の当館企画展「さくらい?不思議?楽しい!?読書初」のサテライト展示(平成28年10月1日～11月27日)を同館内で共同実施することもできた。</p>	<p>項目別評価</p> <p>・特別展等と連携した、企業や民間団体との連携事業(6件)、札幌市青少年科学館と連携した展示・普及事業(4件)等を実施してきた。これらの企画へ当館は主体的に参画し、当館の集客増にも効果があった。</p> <p>・また、全国規模のネットワーキングへの参画や高校との連携など、多様な形での事業の連携の緊密さにも、昨年と比べて固々や、事業内容において、質的には高いものとなった。</p> <p>・昨年に引き続き、「かちかちnet」の運営や、他機関が主宰するネットワークへの参画イベントへのなどにより、他の博物館等との交流・連携を深めることができた。</p> <p>・道内の博物館等系の研究として博物館職員を対象とした研修会を開催したが、形式的な企画に留まらず、協力の形では実施したが、自主的な企画に留まらなかった。</p> <p>・地域の博物館や学校等とのニーズの把握については、引き続き進めていく必要がある。</p> <p>以上より、道内市町村等との連携・協力は計画通り見れば年度計画の目標値には及ばないため評価となる。しかしながら、これまでにならぬ形での連携・協力・交流を進めることができ、また、非常に高い博物館交流を実現でき、動員数も多かった。</p>	<p>評価基準</p>	<p>目標(値)(案)</p>

中期目標・計画番号 11

目標値番号 19

担当 学芸部社会貢献グループ

H28年度		項目別評価 (H28年度の実施状況)		H29年度											
年度計画	No.	目標 (値)	達成状況	自己評価	評価基準										
<p>市内市町村等との連携・協力件数の目標値は、次のとおりとする。</p> <table border="1"> <tr> <td>設定内容</td> <td>平成28年度</td> </tr> <tr> <td>市内市町村等との連携・協力件数</td> <td>45件</td> </tr> </table>	設定内容	平成28年度	市内市町村等との連携・協力件数	45件	19		<p>※年度計画の目標値である「市内市町村等との連携・協力件数」と目標の判断数値である「図書館、博物館、教育委員会等との連携・協力事業の実施件数」は多くが重複し明確に区別できないため、数値としてはいずれも同じ(総数の34件)とした。</p> <p>年度計画実績(平成28年4月～平成29年1月)</p> <table border="1"> <tr> <td>市内市町村等との連携・協力件数</td> <td>34件</td> </tr> <tr> <td>目標 (値) 実績(平成28年4月～平成29年1月)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>図書館、博物館、教育委員会等との連携・協力事業の実施件数</td> <td>34件</td> </tr> </table>	市内市町村等との連携・協力件数	34件	目標 (値) 実績(平成28年4月～平成29年1月)		図書館、博物館、教育委員会等との連携・協力事業の実施件数	34件		
設定内容	平成28年度														
市内市町村等との連携・協力件数	45件														
市内市町村等との連携・協力件数	34件														
目標 (値) 実績(平成28年4月～平成29年1月)															
図書館、博物館、教育委員会等との連携・協力事業の実施件数	34件														
					<p>市内市町村等との連携・協力件数の目標値は、次のとおりとする。</p> <table border="1"> <tr> <td>市内市町村等との連携・協力件数</td> <td>45件</td> </tr> </table>	市内市町村等との連携・協力件数	45件								
市内市町村等との連携・協力件数	45件														

中期目標・計画番号	12-2~3	目標値番号	20	担当	学芸部社会貢献グループ
-----------	--------	-------	----	----	-------------

第1期中期目標・計画項目	プライオリティ				
1.2 情報発信	H27	H28	H29	H30	H31
(2) ICTなどを活用した情報発信機能の強化					
(3) 道民の「知りたい」気持ちへの支援	○	○	○	○	○

点検項目集計	計	○	○	X
	14	11		3

中期目標・計画	項目別評価 (H28年度の実施状況)				
(2) ICTなどを活用した情報発信機能の強化 ア 北海道博物館及び道内博物館の収蔵資料、図書、刊行物に関するデータを整備し、ICTを活用した、関係機関とのより効果的なネットワークを構築する。 イ ICTなどを活用した多様な媒体により、北海道博物館及び道内博物館の諸情報を道民が利用しやすい形で発信する。 (3) 道民の「知りたい」気持ちへの支援 ア 北海道の自然・歴史・文化に関する図書、博物館刊行物、視聴覚資料などを収集し、図書室の充実を図る。 イ 収蔵資料、図書、視聴覚資料などの閲覧スペースを整備し、閲覧・複写などの各種サービスを提供させる。 ウ 北海道の自然・歴史・文化に関する道民の身近な相談窓口として、利用者からのアクセスツールを整備し、レファレンスや学習支援の機能を強化する。 来館しない利用者による利用件数の目標値は、次のとおりとする。	達成状況	自己評価	評価基準		
設定内容	5年間	達成状況	(2) ICTなどを活用した情報発信機能の強化 ・北海道博物館の収蔵資料、図書、刊行物に関するデータの整理を進めた。 ・特に図書については、諸般の事情により当初予定よりも遅延していた図書管理用のデータベースシステムの立ち上げを進め、データベースに未入力のもの登録する作業を再開させた。 ・ウェブサイトの構成を一部刷新し、総合展示・企画展・イベント・新着情報等、大幅にわかりやすい構成となった。 ・これまで館内配布リーフレットの掲載のみだったロシア語・中国語（簡体・繁体）・韓国語のウェブページについて更新を実施し、交通案内・展示の紹介などのコンテンツを追加し、大幅に充実した。 ・ウェブサイトの管理画面についても、より容易に入力できるよう改善するとともに、関係グループ担当者へのレクチャータ行い、担当グループから直接発信できる体制を整えた。 ・ツイッターは252件の投稿を行った。特に、企画テーマに合わせた担当学芸員の投稿の増加が注目を高めるような工夫を実施した。 ・来館者が利用できる無料Wi-Fiサービスを開始した。 ・ICTワーキングチームについては年度内に発足予定である。	(2) 図書管理システムの上り上げを進め、登録を再開することができた。 ・ウェブサイトに必要情報は、利用者にとって必要な情報がわかりやすく得られるようになり、多言語サービスを充実させた。関係グループ担当者が直接ウェブサイトの更新を行えるようにしたこと、必要な情報の追加・更新を迅速に対応できるよう改善した。 ・ツイッターについては、多くの投稿を行った。担当学芸員の紹介に留まらず、学芸員の生の声を届けるなどの工夫で、より魅力的な情報を発信した。 ・無料Wi-Fiの設置により、来館者の利便性を高めた。	B
写真の提供件数	350件	設定内容	5年間		
レファレンス件数	4,000件	アンケート、その他の利用件数	500件		

H28年度		H29年度			
年度計画	年度計画(案)	年度計画(案)	目標(値)(案)		
(2) ICTなどを活用した情報発信機能の強化 ・北海道博物館の収蔵資料、図書、刊行物に関するデータの整理を進め、インターネット上の公開に向けた取組を進める。 ・ウェブサイトおよびツイッターを運営し、各担当グループなど担当が館内の多様な情報を発信できるようにする。 ・館内のICTの充実・活用を包括的かつ一元的に検討するため、ワーキングチームを立ち上げる。 ・ICTワーキングチームと連携しながらソーシャルメディアの一層の活用を進め、多様な媒体による北海道博物館の諸情報の発信の充実を図る。 (3) 道民の「知りたい」気持ちへの支援 ・北海道の自然・歴史・文化に関する道民向け図書の充実を図る。 ・図書室の基本的な機能を軌道に乗せ、職員向けの図書の貸出をスムーズに行えるようにする。 ・利用者からのレファレンスの受付時から担当学芸員への連絡・回答に至る流れを整理してマニュアル化し、レファレンス情報を集約し、館内の共有化の仕組みを作る。	(2) ICTなどを活用した情報発信機能の強化 ・北海道博物館の収蔵資料、図書、刊行物に関するデータの公開に向けた取組を進める。 ・ウェブサイトおよびツイッターを運営し、館内の多様な情報を発信する。 ・館内のICTの充実・活用を包括的かつ一元的に検討するために、平成29年度発足予定のワーキングチームと連携しながらソーシャルメディアの一層の活用を進め、多様な媒体による北海道博物館の諸情報の発信力を強化する。				
No	20	No	20		
目標(値)	・ソーシャルメディアの一層の活用 ・レファレンスの流れの一元化 【判断数値設定】有 ・ソーシャルメディアへの記事投稿回数	達成状況	(2) ICTなどを活用した情報発信機能の強化 ・北海道博物館の収蔵資料、図書、刊行物に関するデータの整理を進めた。 ・特に図書については、諸般の事情により当初予定よりも遅延していた図書管理用のデータベースシステムの立ち上げを進め、データベースに未入力のもの登録する作業を再開させた。 ・ウェブサイトの構成を一部刷新し、総合展示・企画展・イベント・新着情報等、大幅にわかりやすい構成となった。 ・これまで館内配布リーフレットの掲載のみだったロシア語・中国語（簡体・繁体）・韓国語のウェブページについて更新を実施し、交通案内・展示の紹介などのコンテンツを追加し、大幅に充実した。 ・ウェブサイトの管理画面についても、より容易に入力できるよう改善するとともに、関係グループ担当者へのレクチャータ行い、担当グループから直接発信できる体制を整えた。 ・ツイッターは252件の投稿を行った。特に、企画テーマに合わせた担当学芸員の投稿の増加が注目を高めるような工夫を実施した。 ・来館者が利用できる無料Wi-Fiサービスを開始した。 ・ICTワーキングチームについては年度内に発足予定である。	自己評価	(2) 図書管理システムの上り上げを進め、登録を再開することができた。 ・ウェブサイトに必要情報は、利用者にとって必要な情報がわかりやすく得られるようになり、多言語サービスを充実させた。関係グループ担当者が直接ウェブサイトの更新を行えるようにしたこと、必要な情報の追加・更新を迅速に対応できるよう改善した。 ・ツイッターについては、多くの投稿を行った。担当学芸員の紹介に留まらず、学芸員の生の声を届けるなどの工夫で、より魅力的な情報を発信した。 ・無料Wi-Fiの設置により、来館者の利便性を高めた。
目標(値)	・ソーシャルメディアの一層の活用 ・レファレンスの流れの一元化 【判断数値設定】有 ・ソーシャルメディアへの記事投稿回数	達成状況	(2) ICTなどを活用した情報発信機能の強化 ・北海道博物館の収蔵資料、図書、刊行物に関するデータの整理を進めた。 ・特に図書については、諸般の事情により当初予定よりも遅延していた図書管理用のデータベースシステムの立ち上げを進め、データベースに未入力のもの登録する作業を再開させた。 ・ウェブサイトの構成を一部刷新し、総合展示・企画展・イベント・新着情報等、大幅にわかりやすい構成となった。 ・これまで館内配布リーフレットの掲載のみだったロシア語・中国語（簡体・繁体）・韓国語のウェブページについて更新を実施し、交通案内・展示の紹介などのコンテンツを追加し、大幅に充実した。 ・ウェブサイトの管理画面についても、より容易に入力できるよう改善するとともに、関係グループ担当者へのレクチャータ行い、担当グループから直接発信できる体制を整えた。 ・ツイッターは252件の投稿を行った。特に、企画テーマに合わせた担当学芸員の投稿の増加が注目を高めるような工夫を実施した。 ・来館者が利用できる無料Wi-Fiサービスを開始した。 ・ICTワーキングチームについては年度内に発足予定である。	自己評価	(2) 図書管理システムの上り上げを進め、登録を再開することができた。 ・ウェブサイトに必要情報は、利用者にとって必要な情報がわかりやすく得られるようになり、多言語サービスを充実させた。関係グループ担当者が直接ウェブサイトの更新を行えるようにしたこと、必要な情報の追加・更新を迅速に対応できるよう改善した。 ・ツイッターについては、多くの投稿を行った。担当学芸員の紹介に留まらず、学芸員の生の声を届けるなどの工夫で、より魅力的な情報を発信した。 ・無料Wi-Fiの設置により、来館者の利便性を高めた。

中期目標・計画番号 12-2~3

目標値番号 20

担当 学芸部社会貢献グループ

H28年度		H29年度																				
年度計画	No.	目標(値)	目標(値)(案)																			
<p>年度計画</p> <p>来館しない利用者による利用件数の目標値は、次のとおりとする。</p> <table border="1"> <tr> <td>設定内容</td> <td>平成28年度</td> </tr> <tr> <td>写真の提供件数</td> <td>70件</td> </tr> <tr> <td>レファレンス件数</td> <td>800件</td> </tr> <tr> <td>アンケート、その他の利用件数</td> <td>100件</td> </tr> </table>	設定内容	平成28年度	写真の提供件数	70件	レファレンス件数	800件	アンケート、その他の利用件数	100件	20	<p>達成状況</p> <p>(3) 道民の「知のたいい」気持ちへの支援 ・北海道の自然・歴史・文化に関わる図書や博物館刊行物等に ついては、1,998冊(うち一般図書998、雑誌496、博物館 関係出版物1,103)収集し、一般道民向け蔵書の充実を図つ た。 ・図書室の基本的機能の再開・充実の取り組みの一環として、 職員への図書貸出を再開した。 ・特別展や企画テーマ展等に関連する図書を持続的に開架コー ナーに配置するなど、図書室利用の促進に繋がる取り組みを引 き続き進めた。 ・図書管理用のデータベースシステムの立ち上げを進め、シス テムを使った図書貸出の開始に向けて入力を進めた。 ・データベースを使った貸出管理の開始までは至らなかった。 ・各研究グループで知恵した利用者からの問い合わせ(レファ レンス)に関し、受付から担当者への連絡・回答・記録・集計 までの流れをマニュアル化し、対応件数を把握できるようにし た。 ・集計されたレファレンス件数は159件であった。</p>	<p>年度計画(案)</p> <p>(3) 道民の「知のたいい」気持ちへの支援 ・北海道の自然・歴史・文化に関わる道民向け蔵書の 充実化を進め、図書室での利用を促進する。 ・図書室の基本的な機能をさらに充実させるととも に、道民向けの蔵書の充実、展示等と連動した開架 コーナーの更新など、図書室利用の促進につなげる取 り組みを進める。 ・昨年度から開始したレファレンスの集計記録を着実 に実施するとともに、1年の実績を踏まえたマニユア ルの見直しを図る。また、レファレンス内容について 館内で情報を共有化する仕組みを作る取組を進める。</p>	<p>評価 基準</p> <p>自己評価</p> <p>(3) 一般向け図書の充実を 図ることができた。 ・館員への貸出を再開 し、研究活動の充実を図 ることができた。 ・図書管理用システムの 立ち上げを進め、登録を 再開した。 ・レファレンスについて 研究グループごとに対応 件数や内容を一元的に把 握できる体制を整え、前 年度は集計不可能だった 対応件数を記録できるよ うになったのは大きな前 進である。 ・しかしながら、実際に はより多くのレファレン ス対応を実施しているこ とは明らかであるにもか かわらず、集計できた件 数は159件に留まった。 またすべての学芸職員に レファレンス記録の記入 が習慣化できていないた めと考えられるため、マ ニユアルを守るというい うよう徹底する必要があ る。 以上より、レファレンス 件数は目標を大幅に下回 るため、総合的な評価は 白となるが、ウェブサイ トの充実化やSNSのいっ つその活用、図書テーマ ベースの稼働などは年度 計画の範囲を超えて実施 できた。</p> <table border="1"> <tr> <td>年度計画実績(平成28年4月～平成29年1月)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>写真の提供件数</td> <td>90件</td> </tr> <tr> <td>レファレンス件数</td> <td>159件</td> </tr> <tr> <td>アンケート、その他の利用件数</td> <td>11件</td> </tr> </table> <p>目標(値)実績(平成28年4月～平成29年1月)</p> <table border="1"> <tr> <td>ソーシャルメディアへの記事投稿回数</td> <td>252件</td> </tr> </table>	年度計画実績(平成28年4月～平成29年1月)		写真の提供件数	90件	レファレンス件数	159件	アンケート、その他の利用件数	11件	ソーシャルメディアへの記事投稿回数	252件
設定内容	平成28年度																					
写真の提供件数	70件																					
レファレンス件数	800件																					
アンケート、その他の利用件数	100件																					
年度計画実績(平成28年4月～平成29年1月)																						
写真の提供件数	90件																					
レファレンス件数	159件																					
アンケート、その他の利用件数	11件																					
ソーシャルメディアへの記事投稿回数	252件																					

担当	学芸部社会貢献グループ
----	-------------

目標値番号	21
-------	----

中期目標・計画番号	13-1~3
-----------	--------

第1期中期目標・計画項目	プライオリティ				
13 人材育成機能の強化	H27	H28	H29	H30	H31
(1) 博物館実習生やインターンシップなどの受入れ					
(2) 外来研究員の受入					
(3) 派遣研修					

点検項目集計	計	○	×
	6	5	1

<p>中期目標・計画</p> <p>(1) 博物館実習生やインターンシップなどの受入れ</p> <p>ア 博物館実習生やインターンシップを積極的に受け入れ、大学などと連携し、より効果的な実習（研修）プログラムを構築する。</p> <p>イ 教員を目指す学生が博物館の活用方法について学び機会を創出するため、大学などと連携し、授業や研修の講師として当館の職員を積極的に派遣する。</p> <p>(2) 外来研究員の受入</p> <p>外部研究者や大学院生などを受け入れ、当館資料を活用した北海道の自然・歴史・文化に関する研究の機会を提供する。</p> <p>(3) 派遣研修</p> <p>外部機関が開催する博物館学系研修会や技術研修会に当館職員を参加させ、先端の知識と技術を集積する。</p>
--

H28年度		項目別評価（H28年度の実施状況）		H29年度		
年度計画	No.	達成状況	自己評価	評価基準	目標（値）	
<p>(1) 博物館実習生やインターンシップなどの受入れ</p> <p>・博物館実習（館務実習）を夏季に1回実施する。</p> <p>・博物館実習（見学実習）やインターンシップを積極的に受け入れる。</p> <p>・博物館実習の内容についての効果測定を行い、その結果を反映させたより効果的な実習プログラムの構築に向けた取組を進める。</p> <p>・教員を目指す学生が博物館の活用方法について学び機会を創出するため、大学などの授業や研修の講師として当館の職員を積極的に派遣する。</p> <p>(2) 外来研究員の受入</p> <p>・外部研究者や大学院生などを外来研究員として受け入れるため、規定額の整備など体制構築を行う。</p> <p>(3) 派遣研修</p> <p>・外部機関が開催する、博物館学系（特に展示や普及教育など）の研修会などに当館職員を参加させる。</p>	21	<p>(1) 博物館実習生やインターンシップなどの受入れ</p> <p>・博物館実習（館務実習）については、8月16日～26日（実質10日間の日程）で実施した。定員20名のところ限定的に16名（北海道大学、札幌大学、札幌学院大学ほか）の受講ができた。体験学習教材準備、オーディエンス・リサーチ、野外観察プログラム製作、展示実習等、博物館の活動のほぼ全体にわたって体験できるカリキュラムとすることができた。</p> <p>・博物館実習（見学実習）については、5件（北海道大学・同大学院、北海道教育大学、学習院大学大学院ほか、計117名）を受け入れた。</p> <p>・インターンシップについては、3件（札幌市立平岸高校、同旭丘高校、大阪市立鶴見緑地博物館ほか、計16人）を受け入れ、博物館の活動および学芸員の仕事のうち、普及イベントの準備などを体験してもらった。</p> <p>・教員を目指す学生が博物館の活用方法について学び機会を創出するため、大学などの授業や研修の講師としての当館職員を派遣については、本年度は依頼がなかった。</p> <p>(2) 外来研究員の受入</p> <p>・外部研究者や大学院生などを外来研究員として受け入れるため、規定額の整備など体制構築に向けた検討を進めたが、実施には至らなかった。</p> <p>(3) 派遣研修</p> <p>・外部機関が開催する博物館学系の研修会などについては、日本ミュージアム・マネージメント学会大会に2名、日本科学教育学会年会「国字・重要文化財解説・防犯犯罪研究会」「第11回形質形成文化財研究協議会」（東京文化財研究所主催）、「おまかせ」平成28年度アイヌ語アカデミー制作所支援事業アイヌ語聞きおこしに關する研修会」（平取町立三風谷アイヌ文化博物館主催）に各1名の、計5件に延べ6名が参加した。</p> <p>このほか、館内定例研究報告会を12回開催し、運営を軌道に乗せることで、学芸職員・研究職員の研究およびその発表という面での質向上につなげることができた。</p>	<p>(1) 博物館実習（館務実習）については、充実したプログラムで行うことができた。博物館学芸員の後継者および博物館のコミュニケーション形成に貢献できた。</p> <p>・博物館実習（見学実習）やインターンシップを通じては、博物館実習（見学実習）の受け入れに際しては、規定額の整備など体制構築を引き続きの課題として進める必要がある。</p> <p>(2) 外来研究員の受け入れに際しては、規定額の整備など体制構築を引き続きの課題として進める必要がある。</p> <p>(3) 博物館学系の研修会等には今年度は参加は6名（昨年度10名）と減少した。今後は、年間の研修会情報に留意し、早期に講義を共有化し、必要の旅費を確保の上、年度当初に参加希望を要約し計画的に研修会を派遣を行う必要がある。</p> <p>以上より、多くの項目で年度計画をおおむね達成してきたが、派遣研修については計画のな参加には至らなかったためB評価とする。</p>	B	<p>・博物館学芸員の後継者および博物館のコミュニケーション形成</p> <p>・博物館学系領域の充実化</p> <p>【判断数値設定】 有</p> <p>・インターンシップの受入れ件数と人数</p> <p>・博物館学系研修会や技術研修会への参加件数</p>	<p>目標（値）（案）</p> <p>・博物館学芸員の後継者および博物館のコミュニケーション形成</p> <p>・博物館学系領域の充実化</p> <p>【判断数値設定】 有</p> <p>・インターンシップの受入れ件数</p> <p>・博物館学系研修会や技術研修会への参加件数</p>

中期目標・計画番号	14-1~4	目標値番号	22	担当	学芸部社会貢献グループ
-----------	--------	-------	----	----	-------------

H28年度		項目別評価 (H27年度の実施状況)		H28年度		
年度計画	目標(値)	達成状況	自己評価	年度計画(案)	目標(値)(案)	
(4) 外部機関との事業連携 ・民間企業などを含めた外部機関と共同で行う事業を推進するとともに、外部機関の事業への協力・後援を積極的に行う。	22	(4) 外部機関との事業連携 ・特別展「シオパークへ行こう!」の開催に際し、「北海道地蔵株式会社」「イオン北海道株式会社」の特別協賛を得るとともに、「一般財団法人北海道ハイヤー協会」「道庁信用金庫」「株式会社AIRD」(豊橋市北海道環境パートナーシップオフィス)「公益社団法人北海道私立幼稚園協会」「ジェイアール北海道バス株式会社」「タワ工務株式会社」「道新大学」「北海道銀行」(札幌市)「サウザンクロス」「カポロベール株式会社」などからの協力を得ると、多くの民間企業を含む外部機関・組織との連携・協力を行った。「OSEネットワーク」主催イベント、「アースタイム(内山動物園)」「カルチャーナイト」「サイエンスパーク」「教員のための博物館の日in札幌」「シオ・フェスティバルin Sapporo」等、多くの外部機関・組織の主催イベントへの参加を行った。 ・「東京シンポジウム2016」(併市・国立文化財機構)、「北海道150年事業応援企画 北海道の名付ケ鶏・松浦武四郎の軌跡」(センチュリーイロイロホテル)への後援を行った。	(4) 民間企業などを含めた外部機関との事業連携・協力・後援とも、積極的に推進した。 以上より、各種数値でも年番計画の目標を大きく上回っており、また、研究発表の理由についてはウェブサイトで公開でき、次のステップに進むことができ、さらに、企業との連携などこれまでなかった形態の社会貢献を継続的に進めることができたため、S評価とする。	(4) 外部機関との事業連携 ・引き続き、各市町村や民間企業等と連携・共同して行う事業を推進するとともに、外部機関の事業への協力や後援等を積極的に行う。	社会貢献の目標値は、次のとおりとする。 新聞・報道対応の件数 学会発表の件数 学術雑誌等への寄稿の件数 招待講演の件数 各種委員・共同研究員等への就任の件数 その他の件数 計 600 件	

設定内容	平成28年度
新聞・報道対応の件数	
学会発表の件数	332
学術雑誌等への寄稿の件数	30
招待講演の件数	80
各種委員・共同研究員等への就任の件数	59
その他の件数	40
計	200件

新聞・報道対応の件数	
学会発表の件数	
学術雑誌等への寄稿の件数	
招待講演の件数	
各種委員・共同研究員等への就任の件数	
その他の件数	
計	600 件

中期目標・計画番号	24	担当	総務部総括グループ
-----------	----	----	-----------

プライオリティ			
H27	H28	H29	H30
			H31

点検項目集計	計	○	9	×	0

外部評価項目 カハナンス態勢の育成 1. 館内の意思決定機関の育成
備考 H27年度末に北海道立総合博物館協議会から提出される評価のあり方に対する答申に応じて、中期目標・計画とは別に設定した項目である。

H28年度		項目別評価（H28年度の実施状況）		H29年度				
年度計画	No.	目標（値）	達成状況	自己評価	評価基準			
<ul style="list-style-type: none"> 運営会議のスムーズな運営と意思決定機関としての能力を高めるため、各グループ間の事前調整を徹底する。 事業の着実な推進を図るため、優先的に取り組む事業を明確にし、予備要求に反映させることにも、管理職による事業の進行管理を強化する。 博物館事業に対する理解の促進と道内外の関係機関へのPRを図るため、視察対応の一層の充実を図る。 	24	<ul style="list-style-type: none"> 課題の共有と解決 	<p>【運営会議のスムーズな運営】</p> <ul style="list-style-type: none"> 定期的に開催することにより課題などの共有化は図られたが、資料のスリム化や事前配布の徹底は未達成。（参考：平成27年度：36回） <p>【優先順位の明確化と事業の進捗管理】</p> <ul style="list-style-type: none"> 緊急事項の解決に向け、課題、対応方向、重要度を整理した一覧を作成し、このうち重要度の高い課題について、担当グループからヒアリングを実施したが、重要度や緊急度の低いものについては未実施。 <p>【視察対応】</p> <ul style="list-style-type: none"> 博物館事業に対する理解の促進と道内外の関係機関に対するPRを目的に、総務部を中心に、教育機関や各種団体、他府県、道内外市町村の行政機関、議会議員等による視察の受け入れ体制を整備した。 説明資料として博物館の概要をまとめた「要覧」の充実を図った。 <p>《視察の受入件数》 平成28年度：74件、715人（1月末現在） 平成27年度：166件、1,712人 重文子殿下行啓 平成29年2月19日</p>	<ul style="list-style-type: none"> 運営会議の開催回数を増やすことで、館政の意思決定の迅速化や各グループで実施している事業の進捗状況把握が可能となり、情報共有が図られた。 課題の抽出はできたものの、今後はローリングによる進捗修正とともに関連する項目の明確化が必要。 視察希望者の受入窓口を一元化する中で、ニーズへの的確な対応や円滑な受け入れが行われた。また、各専門分野の担当者が、各グループに視察の受け入れの細かな説明をするための細かな説明をするようになった。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 運営会議のスムーズな運営と意思決定機関としての能力を高めるため、各グループ間の事前調整を徹底する。 事業の着実な推進を図るため、緊急事項と本評価との整合性を図りつつ、優先的に取り組む事業を明確にし、予備要求に反映させることにも、管理職による事業の進行管理を強化する。 博物館事業に対する理解の促進と道内外の関係機関へのPRを図るため、視察対応の一層の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 課題の共有と解決 	<ul style="list-style-type: none"> 無

外部評価項目			
ガバナンス態勢の育成			
3. 道庁の支那体制の育成			

外部評価項目			
ガバナンス態勢の育成			
3. 道庁の支那体制の育成			

点検項目集計	計	○	×
	5	4	1

備考	H27年度末に北海道立総合博物館協議会から提出される評価のあり方に対する答申に際して、中期目標・計画とは別に設定した項目である。
----	--

H28年度		H29年度	
年度計画	目標(値)	年度計画(案)	目標(値)(案)
<p>No. 25</p> <p>・博物館の課題について、情報の共有化を図り、適切な連携のもと、解決を図る。</p>	<p>・課題の共有と解決</p>	<p>・博物館の課題について、情報の共有化を図り、適切な連携のもとと解決を図る。</p>	<p>・課題の共有と解決</p>
<p>【判断数値設定】</p> <p>無</p>	<p>【判断数値設定】</p> <p>無</p>	<p>【判断数値設定】</p> <p>無</p>	<p>【判断数値設定】</p> <p>無</p>
<p>達成状況</p> <p>・北海道博物館赤レンガサテライトに関する事項 赤レンガサテライトの展示について、より博物館への誘導力のある空間とするため、博物館と内容を検討しながら年度内にリニューアルする予定である。また、本庁生物多様性保全課と連携し、道内の博物館連携の一環として、1月30日の「知床の日」にあわせて知床地区の博物館等の企画展示を実施した。</p> <p>・博物館の総合展示及び特別展示に関する事項 入場者の増加を図るため、総合展示については、クローズアップ展示の入れ替え時に、また、特別展示については、開催期間後に博物館と情報共有し、本庁において報道発表を行った。</p> <p>・北海道開拓の村の整備に関する事項 北海道開拓の村へのインパウンドの増加を図り、村の収入増につなげるため、内閣府の地域創生拠点整備交付金を活用し、立入禁止としていた旧小川家蔵書室や旧菊田家農家住宅等を改修するとともに、訪日外国人に関心を高めるため、博物館と情報共有しながら、予算要求を行った結果、平成28年度予算(29年度に繰越)に計上された。</p> <p>・百年記念施設のあり方検討に関する事項 老朽化が著しい百年記念塔、北海道開拓の村等について、今後とも補修や修繕等に資する経費が増加していくことが予想されるため、今後どのようにしていくのが良いのか、そのあり方について検討するため、検討会議を設置し取り組んだ。</p> <p>また、平成30年に北海道150年を迎えるにあたり、道民の貴重な財産である当該施設を将来に向けて、どのように後世に伝えていくことが相応しいのか、学識経験者等から幅広く意見を聴取するため、「北海道の歴史文化施設活性化に関する懇談会」を開催している。</p>	<p>自己評価</p> <p>・北海道博物館赤レンガサテライトについては、より効果的に博物館への誘導がなされるよう、博物館に改善策の提案等を行ってきた。また、道内博物館との連携については、企画展示の主権者である生物多様性保全課との連絡調整を行い、サテライトでは初めての連携企画を実現した。</p> <p>・博物館の総合展示及び特別展示については、入場者の増加図られ、特別展示については、今年度も昨年度に引き続き、入場者5万人を超えた。</p> <p>・北海道開拓の村で現在立入禁止となっている旧小川家蔵書室や旧菊田家農家住宅、老朽化が進む熊鷹鉄道跡の軌道を改修する目的が附くことにも、インパウンドの増設に向け、本館ブースの増設、新設、村内看板の多言語化に要する経費を確保できた。</p> <p>・百年記念施設のあり方検討について、庁内関係各課を構成員とした検討会議を設置し、あり方を検討するとともに、学識経験者等で構成する「北海道の歴史文化施設活性化に関する懇談会」を開催し、様々な意見を聞いたいている。</p>	<p>評価基準</p> <p>A</p>	

研究センター事業推進 方針番号	1-1	研究センター目標値番 号	1	担当	アイヌ民族文化研究センター	計画番号	2-1
--------------------	-----	-----------------	---	----	---------------	------	-----

アイヌ民族文化研究センター事業推進方針項目【H26～31 補訂版】	
1 展示事業	北海道博物館中期目標・計画項目
1) 総合展示の運営	2 展示 (1) 総合展示室の運営

アイヌ民族文化研究センター事業推進方針【H26～31 補訂版】(縮刷)	
・アイヌの歴史や有形・無形の文化に関する専門的な機関として、学術的な信頼性の高い研究成果に基づき、わかりやすく、親しみやすい展示を行うとともに、不断にその内容の充実を図り、アイヌ文化の理解促進に努める。	
1) 総合展示の運営	
・総合展示の入替えなどを継続的に実施し、最新の研究成果や当館が所蔵するさまざまな資料を紹介する。	

① クローズアップ展示の運営 ② 「アイヌ文化Q&A」コーナーの運用 ③ 展示資料の入替え	
---	--

点検項目集計	計	○	○	×
	7	6	1	

北海道博物館中期目標・計画プロジェクト				
H27	H28	H29	H30	H31
◎	○	○	○	○

H28年度		H29年度	
項目別評価 (H28年度の実施状況)	自己評価	案	年度計画 (案)
<p>北海道博物館年度計画</p> <p>以下の3点について、所管グループとの連携の下、実施する。</p> <p>① クローズアップ展示の運用 ・第2テーマのクローズアップ展示3、4の席か、他テーマでアイヌの歴史・文化を主題とするクローズアップ展示を企画・実施し、アイヌ文化に関する展示を充実させる。</p> <p>・展示の準備から設置までを早期に行うため、シナリオ及び資料の事前検討などを早期から行う。</p> <p>② 「アイヌ文化Q&A」コーナーの運用 ・更新の計画を定め、定期的な更新を実施する。</p> <p>③ 展示資料の定期的な入替え ・入替え計画を作成し、実施体制を整備する。 ・iPadを利用して衣服を紹介する展示を実施し、画像更新の体制を整える。</p>	<p>達成状況</p> <p>① クローズアップ展示の運用 ・第2テーマのクローズアップ展示3、4で計6件の展示を実施。 ・第3テーマのクローズアップ展示5、第1テーマのクローズアップ展示1では、各1件の展示を実施。 ・シナリオ及び資料の事前検討については、一部に不徹底なものも残ったが、おおむね期日に即した検討を実施した。</p> <p>② 「アイヌ文化Q&A」コーナーの運用 ・更新準備までは作業を進めたが、定期的な更新は2月以降の課題となった。</p> <p>③ 展示資料の定期的な入替え ・総合展示資料の定期的な入替えは、平成28年12月までを目安としてA・2～3ヶ月毎(準備及び関連資料) B 1年毎(単座面を立上りA2階、B・C各1回)の入替えを計画した。C(装身具等)については、作業の実務負担を考慮し、目標を下げた。iPadを利用して衣服を紹介する展示は、写真の精選と機種の確認の途中まで進み、平成29年3月末に実施予定である。</p>	<p>B</p> <p>① クローズアップ展示の運用については、前年度よりも回数・内容ともに充実させ、実施した。</p> <p>② ③ 総合展示の資料の入替えは、7回を実施したが予定よりも実施した。しかし「アイヌ文化Q&A」及び衣服展示のiPad展示は、準備作業の段階で止まっており、年度内の課題となっている。</p>	<p>H29年度</p> <p>① クローズアップ展示3、4の計画決定 ・計画には多様な分野・テーマを盛り込むよう留意</p> <p>② アイヌ文化Q&Aの定期的な追加・更新実施</p> <p>③ 総合展示資料の入替え ・基礎を定め、入れ替え計画策定</p> <p>【判断数値設定】 有 ① クローズアップ展示3、4のうち、各3回 ② アイヌ文化Q&A：更新年間4回(質問8件) ③ 総合展示資料入れ替え 衣服及び関連資料：4回 装身具・祭具等：1回 ノート等：1回</p>

目標(値)の実績(2016年4～12月)

総合展示の入替え総件数	4	件
内訳	2	件
衣服及び関連資料	1	件
装身具等	1	件
ノート等	0	件
クローズアップ展示の件数	8	件
「アイヌ文化Q&A」の入替え件数	0	件

研究センター事業推進 方針番号	1-2~3	研究センター目標値番 号	2	担当	アイヌ民族文化研究センター	北海道博物館中期目標・計画番号	2-2, 3-2
--------------------	-------	-----------------	---	----	---------------	-----------------	----------

アイヌ民族文化研究センター事業推進方針項目【H26~31 補訂版】	
1 展示事業	(2) 特別展・企画展 3) 道内市町村での資料展(アイヌ文化巡回展:仮称)の開催
アイヌ民族文化研究センター事業推進方針【H26~31 補訂版】(縮約)	
アイヌの歴史や有形・無形の文化に関する専門的な機関として、学術的な信頼性の高い研究成果に基づき、わかりやすく・親しみやすい展示を行うとともに、不断にその内容の充実を図り、アイヌ文化の理解促進に努める。	
2) 特別展・企画展	・アイヌ文化巡回展(仮称)の開催
3) 道内市町村での資料展(アイヌ文化巡回展:仮称)の開催	・道内巡回展の開催し、新の研究成果や当館が所蔵するさまざまな資料を紹介する。

北海道博物館中期目標・計画項目	
2 展示	(2) 企画展示の開催
3 調査研究	(2) アイヌ文化に関わる調査研究の重点化
北海道博物館中期目標・計画	
2 展示	(2) 企画展示の開催
イ	他の博物館や民間企業との連携・協働、企画規模の巡回展の誘致により、より魅力的な企画展示を実現する。
ウ	道民の研究授業や創作活動の形など、道民参加型の企画展示を導入し、道民との連携促進を図る。
3 調査研究	(2) アイヌ文化に関わる調査研究の重点化
エ	調査研究などの成果をひろく伝えるため、研究紀要の発行や講演会・講座などの開催とともに、総合展示の充実や企画展示の集約などを進め、アイヌ文化に関する理解促進の取組を一層強化する。

点検項目集計	計	○	×
	3	3	0

北海道博物館中期目標・計画プライオリティ			
H27	H28	H29	H30
◎	◎	◎	◎
			H31
			◎

H28年度		H29年度	
項目別評価 (H28年度の実施状況)			
達成状況	自己評価	評価基準	年度計画(案)
2) 企画展等 ・企画テーマ展については平成29年、30年度に当研究センターが担当となる「カムイとアイヌのものごと」(地名から見える北海道(仮称))の開催計画を策定した。 ・「巡回展の実施と次年度以降の開催計画の選定」の選定も、企画・協働の観点から、期間中の総合展示に配慮する取組があり、アンケートによる満足度も高かった。 3) 巡回展 ・第1回巡回展を枝幸町で、第2回を美幌町で、いずれも「地名」をテーマに開催した。特に枝幸町については、アイヌ文化関連の事業が少ない地域であることから、講座等を開催するとともに、地域に集まった民衆資料の調査とその報告会等も併せて実施した。 ・平成29年度の開催計画の策定が現在の課題である。	企画展については、当年度は実施できなかったが、次年度以降の開催計画を策定した。 ・第1回巡回展を開催し、集約が難しい条件下で、一定の集約者を得た。アイヌ文化巡回展を開催した。アンケート結果については制約が大きいものの、高い評価を得た。 ・次年度以降の開催計画が今後の課題である。	A	第10回企画テーマ展「カムイとアイヌのものごと」を実施する。実施にあたっては、「地域差・個人差が多岐にわたる」のようになり、その多様性を考慮しつつ、どのようにして基本的な情報を伝えるか、「世界観」「物語」という「モノ」の「形」をもとに「何をどのように伝えたいか」を明確にし、関係機関との協力・連携によって内容の充実を図る。 ・第9回企画テーマ展「弥次コレクション」のうち、主にアイヌ民族資料の整理と紹介を分擔する。展示を通して、資料の特徴や意義を適切に伝達できる解説を実施する。 ・平成30年度以降の企画テーマ展、巡回展の計画を策定する。またアイヌ文化に関連したテーマ・内容での特別展の開催についても検討を継続する。 ・既にテーマを定めている「地名から見える北海道(仮称)」については、北海道庁名150年に当たる時期であること等を念頭に置き、開催準備を進める。 ・平成29年度の巡回展を開催し、30年度以降の開催計画を策定する。策定にあたっては、平成28年度同様、地域の選抜や関連して実施する事業に配慮する。
目標(値)	目標(値)	【判断数値設定】	【判断数値設定】
・企画テーマ展、巡回展の開催と次年度以降の開催の両方の実施	・企画テーマ展、巡回展の開催と次年度以降の開催の両方の実施	有 者数	有 者数
・巡回展の実施と次年度以降の開催計画の選定	・巡回展の実施と次年度以降の開催計画の選定	・巡回展、巡回展の開催	・企画テーマ展、巡回展の開催
・企画テーマ展、巡回展の開催と次年度以降の開催の両方の実施	・企画テーマ展、巡回展の開催と次年度以降の開催の両方の実施	・巡回展、巡回展の開催	・企画テーマ展、巡回展の開催

研究センター事業推進
方針番号 1-2~3

研究センター目標値番
号 2

担当 アイヌ民族文化研究センター

北海道博物館中期目標・計画番号 2-2-3-2

H-28年度		H-29年度																			
北海道博物館年度計画		H29年度																			
項目別評価 (H28年度の実施状況)																					
No.	目標 (値)	達成状況	評価基準																		
2		<p>目標 (値) の実績 (平成28年4~平成29年1月) 第1回蔵出し展 (12/22~1/15) ※実質6日間の数値</p> <table border="1"> <tr> <td>利用者数</td> <td>1,632</td> <td>人</td> </tr> <tr> <td>満足度</td> <td>100</td> <td>%</td> </tr> </table> <p>第1回アイヌ文化巡回展 枝幸</p> <table border="1"> <tr> <td>利用者数</td> <td>2,705</td> <td>人</td> </tr> <tr> <td>満足度</td> <td>100</td> <td>%</td> </tr> </table> <p>第2回アイヌ文化巡回展 美幌</p> <table border="1"> <tr> <td>利用者数</td> <td>1,014</td> <td>人</td> </tr> <tr> <td>満足度</td> <td>91.7</td> <td>%</td> </tr> </table>	利用者数	1,632	人	満足度	100	%	利用者数	2,705	人	満足度	100	%	利用者数	1,014	人	満足度	91.7	%	<p>自己評価</p> <ul style="list-style-type: none"> 蔵出し展の広報は、SNS等の手段とチラシ、ポスター配布であり、開催期間も開催日の少ない冬期間で日程も短かったが、期間中の総合展示に匹敵する来場者数及びアンケートによる満足度も高かった。 巡回展は、開催館からの情報によれば、前年同時期と比較し来場者数もや多く、遠隔地からの来場もあったことが特徴的であったことであった。アンケート結果は割引きいて自己評価する必要はある(巡回展では無く、開催館の施設に対する評価が多い)ものの、高い評価を得たとと言える。
利用者数	1,632	人																			
満足度	100	%																			
利用者数	2,705	人																			
満足度	100	%																			
利用者数	1,014	人																			
満足度	91.7	%																			
			<p>年度計画 (案)</p> <p>第10回企画テーマ展「カムイとアイヌのものがたり」(平成30年2月2日~4月8日)</p>																		
			<p>目標 (値) (案)</p> <p>第10回企画テーマ展「カムイとアイヌのものがたり」利用者数:5,000人 満足度:90% (参考 H27年度同時期の企画テーマ展の集計) 利用者数:5,324人 満足度:91.6%</p>																		

研究センター 方針番号	2
----------------	---

研究センター 目標値番 号	3
---------------------	---

担当	アイヌ民族文化研究センター
----	---------------

北海道博物館 中期目標・計画番号	3-2
---------------------	-----

アイヌ民族文化研究センター事業推進方針項目【H26～31 補訂版】
2 調査研究事業

北海道博物館中期目標・計画項目
3 調査研究
(2) アイヌ文化に関わる調査研究の重点化

アイヌ民族文化研究センター事業推進方針【H26～31 補訂版】(縮約)
アイヌの民族に関する専門的な機関としての社会的な要請に応じるために、それらの取組の組みの土台となる研究プロジェクトを推進していく。

北海道博物館中期目標・計画
ア 北海道の総合博物館としてアイヌ文化の継承と理解促進に資するため、アイヌ民族の言語・口承文芸、芸能、民具・生活技術などの有形・無形の文化と、それらの理解に欠かせない歴史について、重点的に調査研究を進める。

点検項目集計	計	○	×
	6	5	1

北海道博物館中期目標・計画プライオリティ			
H27	H28	H29	H31
◎	◎	◎	◎

H28年度		H29年度													
北海道博物館年度計画	項目別評価 (H28年度の実施状況)	評価基準	年度計画(案)												
<p>・アイヌ文化に関する研究課題を、「アイヌ文化に関する総合的・学際的研究プロジェクト」「アイヌ文化に関する総合的・学際的研究プロジェクト」の2つのプロジェクトと、それぞれのプロジェクト内に各4件の個別課題として整理するとともに、ロシア・サハリン州郷土博物館及びカナダ・ロイヤルアルバート博物館との共同研究と、アイヌ民族文化研究センター職員がそれぞれ参加する体制をとった。</p> <p>・海外共同研究については、アイヌ文化研究において内在する課題と、海外共同研究との整合性や棲み分けなどの問題が残っている。と、アルバータ博物館との間では公的な博物館と先住民との関わりのある方面について、サハリン州郷土博物館との間ではアイヌ民族文化の地理差等に関する実物資料や伝説の比較等の課題の検討も始まっている。</p> <p>・外部資金については、日本学術振興会科学研究補助金についてアイヌ民族文化研究センター職員が共同研究代表者として配当を受けている。今後、これら調査研究の内容そのものの充実とともに、外部との連携・共同を含めた総合的な調査研究や展示等の成果発表の充実に関する資金の獲得を目指す。</p>	<p>達成状況</p> <p>・アイヌ文化に関する研究課題を、「アイヌ文化に関する総合的・学際的研究プロジェクト」「アイヌ文化に関する総合的・学際的研究プロジェクト」の2つのプロジェクトと、それぞれのプロジェクト内に各4件の個別課題として整理するとともに、ロシア・サハリン州郷土博物館及びカナダ・ロイヤルアルバート博物館との共同研究と、アイヌ民族文化研究センター職員がそれぞれ参加する体制をとった。</p> <p>・海外共同研究については、アイヌ文化研究において内在する課題と、海外共同研究との整合性や棲み分けなどの問題が残っている。と、アルバータ博物館との間では公的な博物館と先住民との関わりのある方面について、サハリン州郷土博物館との間ではアイヌ民族文化の地理差等に関する実物資料や伝説の比較等の課題の検討も始まっている。</p> <p>・外部資金については、日本学術振興会科学研究補助金についてアイヌ民族文化研究センター職員が共同研究代表者として配当を受けている。今後、これら調査研究の内容そのものの充実とともに、外部との連携・共同を含めた総合的な調査研究や展示等の成果発表の充実に関する資金の獲得を目指す。</p>	<p>A</p> <p>自己評価</p> <p>・研究課題の策定と外部資金の獲得増を達成した。</p> <p>・海外共同研究を含めた研究課題の充実と継続な度合いが、ひとまず平成27年度統合時の課題は達成し、課題等も次の段階へとステップを進めたと自己評価する。</p>	<p>目標(値)(案)</p> <p>・アイヌ文化に関する資料・情報集積プロジェクトの2つのプロジェクトの2つのプロジェクトを、それぞれ個別課題に沿って進める。</p> <p>・平成28年度で終了する個別課題について、その成果をまとめた事業展開(展示等)への成果反映、新たな課題設定等)を検討し、実施する。</p> <p>・ロシア・サハリン州郷土博物館及びカナダ・ロイヤルアルバート博物館との共同研究について、アイヌ文化研究において内在する課題と、海外共同研究との整合性や棲み分けを意識し、「博物館における先住民文化の研究・展示・資料のあり方」「アイヌ民族文化のアイヌ・北海道地域の地理差の比較検討」「近現代を生きたサハリン(樺太)アイヌの足跡」等の課題のあり方を検討していく。</p> <p>・総合的な調査研究や展示等の成果発表の充実に関する資金の獲得を目指す。</p>												
<p>目標(値)</p> <p>・調査研究や研究内容を検討する期間の確保に努め、研究内容を充実させる</p>	<p>【判断数値設定】</p> <p>有</p> <p>・各プロジェクトごとの研究課題の件数</p> <p>・科研等の補助金件数</p>	<p>目標(値)(案)</p> <p>・調査研究や研究内容を検討する期間の確保に努め、研究内容を充実させる</p> <p>・平成28年度で終了する個別課題について、その成果をまとめた事業展開(展示等)への成果反映、新たな課題設定等)を検討し、実施する。</p> <p>・ロシア・サハリン州郷土博物館及びカナダ・ロイヤルアルバート博物館との共同研究について、アイヌ文化研究において内在する課題と、海外共同研究との整合性や棲み分けを意識し、「博物館における先住民文化の研究・展示・資料のあり方」「アイヌ民族文化のアイヌ・北海道地域の地理差の比較検討」「近現代を生きたサハリン(樺太)アイヌの足跡」等の課題のあり方を検討していく。</p> <p>・総合的な調査研究や展示等の成果発表の充実に関する資金の獲得を目指す。</p>	<p>【判断数値設定】</p> <p>有</p> <p>・各プロジェクトごとの研究課題の件数</p> <p>・科研等の補助金件数</p>												
<p>目標(値)の実績</p> <table border="1"> <tr> <td>アイヌ文化に関する資料・情報集積プロジェクト</td> <td>4</td> <td>件</td> </tr> <tr> <td>アイヌ文化に関する総合的・学際的研究プロジェクト</td> <td>4</td> <td>件</td> </tr> <tr> <td>海外博物館等との共同研究プロジェクト</td> <td>2</td> <td>件</td> </tr> <tr> <td>科研等の補助金件数</td> <td>4</td> <td>件</td> </tr> </table>	アイヌ文化に関する資料・情報集積プロジェクト	4	件	アイヌ文化に関する総合的・学際的研究プロジェクト	4	件	海外博物館等との共同研究プロジェクト	2	件	科研等の補助金件数	4	件			
アイヌ文化に関する資料・情報集積プロジェクト	4	件													
アイヌ文化に関する総合的・学際的研究プロジェクト	4	件													
海外博物館等との共同研究プロジェクト	2	件													
科研等の補助金件数	4	件													

研究センター事業推進 方針番号	3	研究センター目標値番 号	4	担当	アイヌ民族文化研究センター	北海道博物館中期目標・計画番号	3-2
--------------------	---	-----------------	---	----	---------------	-----------------	-----

アイヌ民族文化研究センター事業推進方針項目【H26～31 補訂版】
3 資料・情報の収集・整備事業

アイヌ民族文化研究センター事業推進方針【H26～31 補訂版】（縮約）
ア 道内外の関係機関、研究者との連携を図り、アイヌ文化に関する資料の所在調査を進め、情報の収集・整理を行う。
イ 道内の中核博物館における専門機関として、先ず道立機関が所蔵する音声・映像資料及び文書資料、民具資料についての情報の一元的な集約を進める。
ウ さらに道内市町村に所在する各種の資料に重点を置き、総合的、体系的に調査・収集を進める。

点検項目集計	計	○	×
	4	3	1

北海道博物館中期目標・計画プロジェクト			
H27	H28	H29	H30
◎	◎	◎	◎
			H31
			◎

北海道博物館中期目標・計画
関係機関や研究者、伝承活動関係者などとの連携により、道内各地のアイヌ文化に関する資料の所在調査を進め、整理・保存作業を行う。

H28年度		H29年度		
北海道博物館年度計画	項目別評価 (H28年度の実施状況)	評価基準	目標(値)(案)	
<p>4</p> <p>調査研究計画の中に資料の調査を位置付けることにも、各事業などと連動して資料調査を行うなど、組織的な調査体制を強化する。</p> <p>・新規に受け入れる資料などは年度前半に資料整理計画を策定し、登録及び保存などを実施する。</p> <p>・「山田秀三文庫」「久保寺逸文庫」の未整理・未登録資料の整理・登録を進める。</p> <p>・民具資料の整理は、H31年度までに完了するよう所管グループとも協議して計画を策定し、その作業は展示事業とも連動させ継続的に進める。</p>	<p>達成状況</p> <p>・資料収集については、研究計画→資料調査→成果報告という流れで進めた作業もあるが、組織的な調査及び情報整備の体制をつくるには至らなかった。</p> <p>・新規に受け入れた資料の一部については、平成27、28年度それぞれに研究総覧に新編資料紹介に相当する論考を掲載した。今後に向けて、新編総覧資料全巻についての論考を仕上げる。それらの中で特筆的な意義を有するもので、短期的に整理・内容確認が可能なものについては、年度内において資料紹介を行う。「長期的な整理は必要なのは3～5年単位の整理・公開計画を策定する」といった区分を設け、資料は公共財であることの認識のもと情報提供を必ず視野に入れた計画を策定していくこととした。</p> <p>・「山田秀三文庫」「久保寺逸文庫」の未整理・未登録資料の整理・登録については、ごく一部に着手したこととなった。</p> <p>・民具資料の未整理資料については、一部について登録まで実施し、また関係者への聞き取り等により資料情報を補う作業を行ったが、当初の計画(平成31年度までに整理を終える)からは、やや遅延している。</p>	<p>B</p> <p>自己評価</p> <p>・資料の収集・整理及び速やかな情報提供等について、よやくや欠落を付けつつあるが、整理の取り組むに当たっては、未着手のところが多く残っている。また、資料紹介の進捗が現れつつある。</p>	<p>年度計画(案)</p> <p>・未整理資料の整理・データ登録・配架について平成29～31年度で完了させる計画を再度策定し、実施する。</p> <p>・新規に受け入れるテープ・レフ・レフ・レフ・レフ等の整理を進める。その際、整理・登録の済んだ資料に優先的に参加するとともに、研究配架等を使った体系的・組織的な紹介の進め方を検討し、実施する。</p> <p>・研究プロジェクト(個別研究課題)や巡回展等の事業計画の中に資料の所在調査、情報収集等を位置づける。</p>	<p>目標(値)(案)</p> <p>・資料の整理・登録・配架気名の策定</p> <p>・計画に基づく資料登録の実施</p> <p>・新収蔵資料紹介の継続的実施</p> <p>・資料の所在調査等の継続的実施</p>
	<p>目標(値)</p> <p>・収集・整備のための調査の実施件数(所在調査を含む)</p> <p>・収集した資料の件数</p>	<p>【判断数値設定】</p> <p>有</p> <p>・新たに登録した資料の件数(一本処理のままの資料の残数の段階的解消)</p> <p>・収集した資料の件数</p> <p>・資料の所在調査等の実施件数</p>	<p>【判断数値設定】</p> <p>有</p> <p>・新たに登録した資料の件数(一本処理のままの資料の残数の段階的解消)</p> <p>・収集した資料の件数</p> <p>・資料の所在調査等の実施件数</p>	
	<p>目標(値)</p> <p>平成28年4月～平成29年1月)</p> <p>収集・整備のための調査の実施件数</p> <p>10 件</p> <p>収集した資料の件数</p> <p>2 件</p>			

研究センター目標値番	6	担当	アイヌ民族文化研究センター	北海道博物館中期目標・計画番号	12-1
------------	---	----	---------------	-----------------	------

アイヌ民族文化研究センター事業推進方針項目【H26～31 補訂版】
 4 資料・情報等の公開・提供事業
 2) 情報発信
 (1) 学術情報の集約 (2) 発信基盤の整備

北海道博物館中期目標・計画項目
 1.2 情報発信
 (1) アイヌ文化に関する学術情報の集約と発信

北海道博物館中期目標・計画	H27	H28	H29	H30	H31
	◎	◎	◎	◎	◎

研究センター目標値番	6	担当	アイヌ民族文化研究センター
------------	---	----	---------------

アイヌ民族文化研究センター事業推進方針項目【H26～31 補訂版】
 4 資料・情報等の公開・提供事業
 2) 情報発信
 (1) 学術情報の集約 (2) 発信基盤の整備

北海道博物館中期目標・計画
 1.2 情報発信
 (1) アイヌ文化に関する学術情報の集約と発信

北海道博物館中期目標・計画	H27	H28	H29	H30	H31
	◎	◎	◎	◎	◎

点検項目集計	計	○	×
(1) 学術情報の集約	3	2	1
(2) 発信基盤の整備	3	1	2

アイヌ民族文化研究センター事業推進方針【H26～31 補訂版】(縮刷)

- (1) 学術情報の集約
 ・これまでの調査・研究事業及び資料・情報の収集・整理事業を通して蓄積されてきた学術情報の集約を図る。
 ① アイヌ文化に関する学術情報の収集とデータベース化 ② 道内の市町村と連携した情報の集約
 (2) 発信基盤の整備
 ・インターネット等を通して提供方法の拡充などより広く情報を提供できる発信基盤の整備を図る。
 ① アイヌ文化関係の学術情報の発信 ② ホームページの充実 ③ 発信媒体の強化

H28年度		項目別評価 (H28年度の実施状況)		H29年度						
No.	目標(値)	達成状況	自己評価	評価基準	年度計画(案)	目標(値)(案)				
6	<ul style="list-style-type: none"> 整理・公開計画の策定に基づきデータベース化を着手する ホームページアクセス10,000以上 	<p>(1) 学術情報の集約 ・H28年度は現在の収蔵資料に関するデータの整備を優先課題とし、H27年度までに登録した資料のデータ整備を行う。</p> <p>(2) 発信基盤の整備 ・北海道がこれまでに実施してきたアイヌ文化に関する調査事業の成果や調査データの集約に向け関係機関との協議を行うとともに、データベース化に着手し、先ず1980～90年代の民俗調査報告書のデータを公開する。</p> <p>(3) 発信基盤の整備 ・情報システムの更新更新を自覚し、アイヌ文化情報データベースのあり方を検討し整備を進める。</p> <p>・ホームページにおいて、アイヌ文化の学術情報などのコンテンツの拡充を図る。</p>	<p>・学習・研究のための情報発信についてはほとんど進捗していない。</p> <p>・インターネットを通じた発信・提供の方法と計画を再検討し、策定し、実行することとした。その中で、ホームページアクセス件数に関する目標値についても再検討することとし、今後の課題とした。</p>	B	<p>(1) 情報発信方策の再検討 ・現在及び今後の北海道博物館によるウェブサイトに及び学術情報発信のあり方の中で、アイヌ民族文化研究センターとしての情報発信の位置付けを再検討する(ウェブサイトでの上記・コンテンツの追加)</p> <p>・上記と並行して「ほっかいどうアイヌ語アーカイブ」の整備計画を策定する。</p> <p>(2) 学術情報の集約 ・収蔵資料のデータ整備を行う。</p> <p>・北海道がこれまでに実施してきたアイヌ文化に関する調査事業の成果や調査データの集約に向け関係機関との協議を進め、データ提供に向けた情報整備を進める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ウェブサイトで(ホームページ)の更新計画の策定 「ほっかいどうアイヌ語アーカイブ」の掲載資料、コンテンツの追加 				
		<p>目標(値)の実績(2016年4～12月) アイヌ文化コンテンツの追加数 ホームページのアクセス数</p> <table border="1"> <tr> <td>0</td> <td>回</td> </tr> <tr> <td>3,500</td> <td>件</td> </tr> </table>	0	回	3,500	件				
0	回									
3,500	件									

研究センター事業推進 方針番号	4-2	研究センター目標値番 号	7	担当	アイヌ民族文化研究センター	研究センター目標値番 号	12-3
--------------------	-----	-----------------	---	----	---------------	-----------------	------

アイヌ民族文化研究センター事業推進方針項目【H26～31 補訂版】	北海道博物館中期目標・計画項目
4 資料・情報等の公開・提供事業	1.2 情報発信
2) 情報発信	(3) 道民の「知りたい」気持ちへの支援
(3) 学習・伝承活動への支援	

アイヌ民族文化研究センター事業推進方針【H26～31 補訂版】(縮約)	北海道博物館中期目標・計画
・それらに基づいた学習・伝承活動への支援を行う。	ウ 北海道の自然・歴史・文化に関わる道民の身近な相談窓口として、利用者からのアクセスツールを整備し、レファレンスや学
① 関係機関、団体等に対する支援の強化	習支援の機能を強化する。
② レファレンス(学習相談等)への対応	

点検項目集計	計	○	○	×	○
	3	3	3	0	0

北海道博物館中期目標・計画プライオリティ					
H27	H28	H29	H30	H31	
○	○	○	○	○	○

H-28年度		H-29年度							
項目別評価 (H28年度の実施状況)									
No.	目標(値)	達成状況	評価 基準						
7	<p>・認知度を上げるため、ホームページ等での新たな情報を掲載する</p> <p>【判断数(値設定)】 有</p> <p>・レファレンス件数</p> <p>・他機関、団体への学習・伝承支援件数(講師、情報提供等)</p>	<p>達成状況</p> <p>・0のうち、ホームページでの情報の追加や更新については、「6」に述べたとおり、ほとんど実施できていない。</p> <p>・ただし、アイヌ文化の照会窓口としての認知度は、博物館その他の認知度の浸透にもなっており、回復している。</p> <p>・2のレファレンス記録については、館としての記録の定型化を図った。対応内容・記録の周知と共有については、伝承共有を進める余地がある。レファレンス件数は、記録の作成が年度途中からであることや、単純な比較は困難であるが、旧道立アイヌ民族文化研究センター当時の半分程度である。</p>	<p>B</p> <p>自己評価</p> <p>・レファレンス対応等の、前進をみた事項もあるが、情報発信に関する課題が大きいと判断し、自己評価は抑えている。</p>	<p>年度計画(案)</p> <p>・博物館・研究機関としての役割を踏まえ、ホームページ等での情報発信の再開</p> <p>・ホームページでの情報の追加や更新の体制を定め直し、情報発信を再開する。</p> <p>②レファレンス対応の記録票の定型化を進め、これらの情報の共有化による対応力の向上を図る。</p> <p>【判断数(値設定)】 有</p> <p>・レファレンス件数</p> <p>・他機関、団体への学習・伝承支援件数(講師、情報提供等)</p>					
<p>北海道博物館年度計画</p> <p>・博物館・研究機関としての役割を踏まえ、ホームページ等での情報発信の再開</p> <p>・ホームページでの情報の追加や更新の体制を定め直し、情報発信を再開する。</p> <p>②レファレンス対応の記録票の定型化を進め、これらの情報の共有化による対応力の向上を図る。</p>		<p>目標(値)(案)</p> <p>・ホームページ等での情報発信の再開</p>	<p>北海道博物館中期目標・計画</p> <p>ウ 北海道の自然・歴史・文化に関わる道民の身近な相談窓口として、利用者からのアクセスツールを整備し、レファレンスや学習支援の機能を強化する。</p>						
<p>目標(値)の実績(平成28年4月～平成29年12月)</p> <table border="1"> <tr> <td>レファレンス件数</td> <td>48</td> <td>件</td> </tr> <tr> <td>他機関、団体への学習・伝承支援件数</td> <td>1</td> <td>件</td> </tr> </table>				レファレンス件数	48	件	他機関、団体への学習・伝承支援件数	1	件
レファレンス件数	48	件							
他機関、団体への学習・伝承支援件数	1	件							

研究センター事業推進 方針番号	5-1	研究センター目標値番 号	8	担当	アイヌ民族文化研究センター	北海道博物館中期目標・計画番号	5-1~3
--------------------	-----	-----------------	---	----	---------------	-----------------	-------

アイヌ民族文化研究センター事業推進方針項目【H26~31 補訂版】
5 成業の普及事業
1) 教育普及

アイヌ民族文化研究センター事業推進方針【H26~31 補訂版】(総論)
ア 自然・歴史・文化の総合博物館であることのメリットを活かしながら、講演会・講座等の事業、展示の解説、「はっけん広
場」(旧体験学習室)の機能の充実を図る。
イ さまざまな年齢層に向けた、わかりやすく、楽しく、親しみやすい学習機会の提供や、学習素材の開発・作成等を通して、ア
イヌ文化の普及及び理解促進に努める。

点検項目集計	計	○	×
	2	2	0

北海道博物館中期目標・計画項目
5 教育普及事業
(1) 魅力あるイベントの充実 (2) 教材の充実 (3) はっけん広場の運営

北海道博物館中期目標・計画
オ イベントやプログラムの充実にあたっては、特にアイヌ文化や北海道の自然に関する事業を重点的に強化する。
カ イベントやプログラムの充実 (2) 教材の充実
キ 魅力あるイベントの充実
ク イベントやプログラムの充実 (2) 教材の充実
ク 博物館利用促進の一環として、学校など、館外への「はっけんキット」の貸出しを推進する。

北海道博物館中期目標・計画プライオリティ					
	H27	H28	H29	H30	H31
(1) 魅力あるイベントの充実	◎	○	○	○	○
(2) 教材の充実	◎	◎	◎	◎	◎
(3) はっけん広場の運営	◎	◎	◎	◎	◎

H28年度		H29年度	
北海道博物館年度計画	項目別評価 (H28年度の実施状況)	評価 基準	年度計画 (案)
<p>・館で行う講演会・講座や、その他の教育普及及び巡回展などで実施する関連事業について、内容や効果を分析し、実施する種類と回数を段階的に増やしていく。</p> <p>・グループレクチャーの充実を図るため、情報交換と内容検討の機会を設ける。</p> <p>・館外に向けた情報発信や展示紹介をとおして、グループレクチャーの増加を図る。</p>	<p>達成状況</p> <p>・平成28年度は、職員が館で実施した講座・ワークショップ等は10件、巡回展で実施した講座等が3件で、いずれも前年度から飛躍的に増加した。</p> <p>内容や効果の分析は今後の課題であり、今年度にも回数が増減に増やしていくことと合わせて、実効性や業務上の負担などを慎重に見極めていくこととした。</p> <p>・グループレクチャーの件数も前年度よりも増加した。</p> <p>今後、館として学校等の団体誘致に力を入れる方針であり、その中でアイヌの歴史や文化に関するテーマの要望も増えることが予想されることから、正確な内容をわかりやすく伝える役割を自覚し、グループレクチャー内容の充実に向けた取り組みを検討することとした。</p> <p>・はっけん広場で実施するプログラムは、今年度特に改善に向けた検討を実施できなかった。次年度の課題とした。</p>	A	<p>・館で行う講演会・講座や、その他の教育普及及び巡回展などで実施する関連事業について、内容や効果を分析し、効果的・体系的な開催につなげる。</p> <p>・グループレクチャーの充実を図るため、情報交換と内容検討の機会を設ける。</p>
<p>目標 (値)</p> <p>・アイヌ文化関連のイベントの段階的な増加と改良</p> <p>【判断数値設定】 有 ・グループレクチャーの連 続件数 (全体数とアイヌ関 連件数) ・はっけんプログラムの実 施件数 (全体数とアイヌ関 連件数) ・上記以外に行った館内イ ベント件数</p>	<p>目標 (値) (案)</p> <p>・アイヌ文化に関する普及事 業の効果的な実施体制</p> <p>【判断数値設定】 有 ・グループレクチャーの連 続件数 (全体数とアイヌ関 連件数) ・はっけんプログラムの実 施件数 (全体数とアイヌ関 連件数) ・上記以外に行った館内イ ベント件数</p>		

研究センター事業推進
方針番号 5-1

研究センター目標値番
号 8

担当 アイヌ民族文化研究センター

北海道博物館中期目標・計画番号 5-1~3

H27年度		項目別評価（H28年度の実施状況）			H29年度																
北海道博物館年度計画	No.	目標（値）	達成状況	自己評価	評価 基準	年度計画（案）	目標（値）（案）														
	8		<p>目標（値）の実績(2016年4~12月)</p> <table border="1"> <tr> <td>グループレクチャーの実施件数</td> <td>件</td> </tr> <tr> <td>全体</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>アイヌ関連</td> <td>22</td> </tr> <tr> <td>はっけんプログラムの実施件数</td> <td>件</td> </tr> <tr> <td>全体</td> <td>257</td> </tr> <tr> <td>アイヌ関連</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>上記以外に行った館内イベント件数</td> <td>2</td> </tr> </table>	グループレクチャーの実施件数	件	全体	1	アイヌ関連	22	はっけんプログラムの実施件数	件	全体	257	アイヌ関連	1	上記以外に行った館内イベント件数	2			<p>グループレクチャーの実施</p> <p>はっけんプログラムの検討と実施</p> <p>上記以外の館内イベントの実施</p>	<p>アイヌ文化関連のグループレクチャー：年間24件</p> <p>はっけんプログラム：1件</p> <p>その他のイベント：2件</p>
グループレクチャーの実施件数	件																				
全体	1																				
アイヌ関連	22																				
はっけんプログラムの実施件数	件																				
全体	257																				
アイヌ関連	1																				
上記以外に行った館内イベント件数	2																				

研究センター事業推進方針番号	5-2
----------------	-----

研究センター目標値番	9
------------	---

担当	アイヌ民族文化研究センター
----	---------------

北海道博物館中期目標・計画番号	9-1, 12-1, 14-1
-----------------	-----------------

アイヌ民族文化研究センター事業推進方針項目【H26～31 補訂版】

5 成果の普及事業
2) 研究成果の提供

北海道博物館中期目標・計画項目

9 広報
12 情報発信
14 研究成果の発信と社会貢献

アイヌ民族文化研究センター事業推進方針【H26～31 補訂版】(縮約)

ア 研究成果をとりまとめた研究紀要等の成果報告書を刊行していく。

イ 研究成果を踏まえた講演会の開催など、アイヌ文化に関する最新の研究成果や正確な情報をよりわかりやすいかたちで提供する取組を一層強化する。

ウ ささまざまな取組を通じて、北海道博物館の内部組織としてのアイヌ民族文化研究センターの取組を周知していく。

北海道博物館中期目標・計画

ア 市民の博物館への関心を広げ、利用を促進していくため、あらゆる広報媒体を活用するとともに、職員全員が積極的な広報活動を展開する。

イ これらの成果については、さまざまな媒体や機会を通じた提供を進め、北海道博物館がアイヌ文化の継承、学習、研究に与える役割の重要性を広く知らせるため、学術的意義を広く知らせるために展示図録や解説用冊子を刊行する。

点検項目集計	計	○	×
	3	2	1

北海道博物館中期目標・計画フライオリテ					
	H27	H28	H29	H30	H31
9 広報(1)	◎	○	○	○	○
12 情報発信(1)	◎	◎	◎	◎	◎
14 研究成果の発信と社会貢献(1)					

H27年度		H28年度																			
北海道博物館年度計画	目標(値)	年度計画(案)	目標(値)(案)																		
<p>『北海道博物館アイヌ民族文化研究センター研究紀要』第2号を刊行する。</p> <p>H28年度に開催する「蔵出し展」などに資料調査の成果を反映させていく。</p> <p>『アイヌ文化紹介小冊子』収録の学習情報を改訂して再発行し、対外的な提供体制を整備する。</p> <p>「ちやれんがニュース」を通じてアイヌ民族文化研究センターの活動をわかりやすく発信する。</p>	<p>9</p>	<p>『北海道博物館アイヌ民族文化研究センター研究紀要』第3号を刊行する。</p> <p>平成29年度に開催する企画テーマ展に調査成果を反映させていく。</p> <p>『アイヌ文化紹介小冊子』収録の学習情報を改訂して再発行し、対外的な提供体制を整備する。</p> <p>「ちやれんがニュース」等を通じてアイヌ民族文化研究センターの活動をわかりやすく発信する。</p>	<p>研究成果等を通じて研究成果を積極的に発信し、その内容を充実させる。</p> <p>【判断数値設定】 有 ・「ちやれんがニュース」の記事数 ・他機関の機関紙等での記事掲載数 ・酒内市町村等との連携・協力件数(サイエンスパーク等) ・新聞・報道対応件数 ・講演依頼件数 ・各種委員への就任件数</p>																		
<p>『北海道博物館アイヌ民族文化研究センター研究紀要』第2号を刊行する。</p> <p>H28年度に開催する「蔵出し展」などに資料調査の成果を反映させていく。</p> <p>『アイヌ文化紹介小冊子』収録の学習情報を改訂して再発行し、対外的な提供体制を整備する。</p> <p>「ちやれんがニュース」を通じてアイヌ民族文化研究センターの活動をわかりやすく発信する。</p>	<p>達成状況</p> <p>・『北海道博物館アイヌ民族文化研究センター研究紀要』第2号は、平成29年1月末までに掲載内容を確定し、3月発行の予定であり、58本の論考を掲載し、『北海道博物館研究紀要』第2号とあわせて、アイヌ民族文化研究センター所属7名のうち6名までが執筆し、事業・研究成果を発表した。</p> <p>・館の広報誌「森のちやれんがニュース」に「アイヌ民族文化研究センターだより」のページを設け、巡回展等やアイヌ文化紹介小冊子など、アイヌ文化に関する事業や出版物、職員の報告等を発信した。</p> <p>・展示に研究成果を反映させることについては、今年度は蔵出し展のみの開催だったこともあり、29年度以降の課題となった。また、アイヌ文化紹介小冊子収録の学習情報の集約・改訂については着手できず、引き続き今後の課題である。</p> <p>・研究紀要への投稿内容やその他の研究成果の発表について、アイヌ民族文化研究センターとして検討する機会を、年度当初の1回のみにとらせたため、この点は十分とは言えなかった。</p>	<p>自己評価</p> <p>・研究紀要の発行や広報誌の活用等は所期の目標を達成したが、小冊子の学習情報のとりまとめや、研究紀要の掲載内容充実に向けた取り組みに課題を残した。</p> <p>・自己評価では、講演実施件数等の成果発表の機会を伸ばしたことを評価したが、上述のとおり、かつかの体感や課題があることは自覚しておく必要がある。</p>	<p>9 広報(1)</p> <p>12 情報発信(1)</p> <p>14 研究成果の発信と社会貢献(1)</p>																		
<p>目標(値)の実績(2016年4～12月)</p> <table border="1"> <tr> <td>「ちやれんがニュース」の記事数</td> <td>3</td> <td>件</td> </tr> <tr> <td>他機関の機関紙等での記事掲載数</td> <td>2</td> <td>件</td> </tr> <tr> <td>酒内市町村等との連携・協力件数</td> <td>2</td> <td>件</td> </tr> <tr> <td>新聞・報道対応件数</td> <td>3</td> <td>件</td> </tr> <tr> <td>講演依頼件数</td> <td>16</td> <td>件</td> </tr> <tr> <td>各種委員への就任件数</td> <td>16</td> <td>件</td> </tr> </table>				「ちやれんがニュース」の記事数	3	件	他機関の機関紙等での記事掲載数	2	件	酒内市町村等との連携・協力件数	2	件	新聞・報道対応件数	3	件	講演依頼件数	16	件	各種委員への就任件数	16	件
「ちやれんがニュース」の記事数	3	件																			
他機関の機関紙等での記事掲載数	2	件																			
酒内市町村等との連携・協力件数	2	件																			
新聞・報道対応件数	3	件																			
講演依頼件数	16	件																			
各種委員への就任件数	16	件																			

研究センター方針番号

研究センター目標値番
10

担当
アイヌ民族文化研究センター

北海道博物館中期目標・計画番号

外部評価項目
ガハナンス態勢の育成
2. 研究センター内の意思決定機関の育成

北海道博物館中期目標・計画プライオリティ			
H27	H28	H29	H30
			H31

備考
H27年度末に北海道立総合博物館協議会から提出される評価のあり方に対する答申に応じて、研究センター事業推進方針及び中期目標・計画とは別に設定した項目である。

点検項目集計	計	○	×
	6	5	1

H28年度		項目別評価 (H28年度の実施状況)		H29年度		
No.	目標(値)	達成状況	自己評価	評価基準	年度計画(案)	
10	<p>研究センター会議(副館長・センター長・非常勤職員)の会議/職員全体の会議(生幹・生直の会議)の定例化</p>	<p>①については、研究紀要の編集方針程度の調査研究上の主要な案件については、常勤職員の会議と前記して、副館長・センター長及び非常勤研究職員による打合せを開催し、方針の検討ならびに事業の進捗状況の確認等を行った。</p> <p>②については、業務の事情により定例化することはできなかったが、前年度に引き続き職員の会議を一定の頻度(週1回~隔週程度)で開催した。また会議開催の周知が早い場合は場合は電子メールによる情報共有を図った。</p>	<p>①についてはやや遅延を自覚したが、②についてはほぼ定例化の余地がある。特に学芸部業務と研究業務(本項との関わり)では研究計画等に關する組織的な協議体制)との確立等の課題が残っている。</p>	B	<p>研究センターの運営・事業推進に係る検討の場について、次の通り計画し、運営にあたる。</p> <p>① 調査研究等の基本方針については、館の運営会議以下の各検討会議を踏まえつつ、館内でアイヌ民族文化担当副館長、センター長及び非常勤研究職員による検討会議を開催する。</p> <p>② 研究センター職員による会議を定例化し、その際参加できない職員についても持ち回りなどによる情報共有を確保する。</p>	<p>研究センター会議(副館長・センター長・非常勤職員)の会議/職員全体の会議等の定例化</p>
	【判断数値設定】 無					



北海道博物館

HOKKAIDO MUSEUM